２０２４年　災害要因分析　（含過去１０年間の推移）

（会員会社）

★　災害要因分析要領

①　調査対象
　この分析調査は、２０２４年１２月末現在の日本製紙連合会労務部会会員会社の休業災害及び不休災害を対象とした。

②　対象期間
　対象期間は、２０２４年１月～１２月としたが、年の締日は各社の賃金締切日に合わせている。

③　対象範囲
　対象期間中に発生した災害のうち、労務部に要因分析の連絡があったものを対象としているが、２０２４年は全ての災害について要因分析表が提出されている。
　２０２４年の発生件数は、休業災害＝３３件、不休災害＝４８件、合計８１件
（前年比　→休業災害＝±０件（内、死亡災害±０件）、不休災害＝＋３件）である。

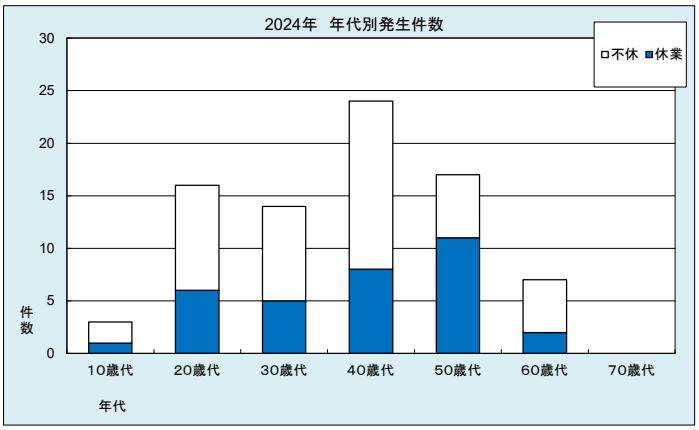
④　分析項目
　分析項目の内、傷害の部位・傷害の種類・災害の型・作業状況等分析項目によっては複数の要素に該当することがあるため、合計数が災害発生件数と一致しないことがある。

⑤　会員会社の年代別人員及び勤続別人員
　千人率を求める際の基礎人員は、厚生労働省調査「令和６年賃金構造基本統計調査」の紙パルプ産業全体人数より比例計算をして算出した。

１.年代別発生件数

過去10年の年代別発生件数を見ると、「40歳代」（第1位8回、第3位1回）が最も多く、次いで「20歳代」（第1位2回、第2位5回、、第3位3回）、「30歳代」（第1位1回、第2位4回、第3位2回）が続いている。但し、どの年代の災害発生が多いかは、年代毎の構成人員が異なるので、この件数のみでは比較できない。次項の年代別千人率も参照願いたい。

年齢	休業	不休	合計	占率
１０歳代	1	2	3	4%
２０歳代	6	10	16	20%
３０歳代	5	9	14	17%
４０歳代	8	16	24	30%
５０歳代	11	6	17	21%
６０歳代	2	5	7	9%
７０歳代				
計	33	48	81	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	４０歳代 24件（30%）	２０歳代 26件(33%)	５０歳代 25件(27%)	４０歳代 27件(31%)	４０歳代 21件(32%)	４０歳代 22件(32%)	20歳代/40歳代 15件（25%）	４０歳代 19件（30%）	４０歳代 20件(43%)	30歳代/40歳代 18件(27%)
２位	５０歳代 17件(21%)	３０歳代 18件(23%)	２０歳代 20件(22%)	５０歳代 19件(22%)	２０歳代 19件(29%)	３０歳代 19件(28%)	３０歳代 13件（22%）	20歳代/30歳代 16件（25%）	２０歳代 10件（21%）	２０歳代 13件(20%)
３位	２０歳代 16件(20%)	５０歳代 16件(21%)	４０歳代 19件(21%)	20歳代/30歳代 17件(20%)	５０歳代 11件(17%)	２０歳代 10件(14%)	５０歳代 10件(17%)	５０歳代 7件（11%）	３０歳代 9件(19%)	５０歳代 9件(14%)

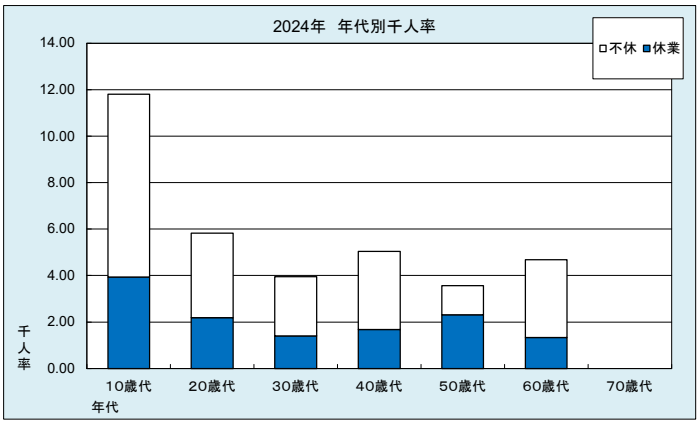
２.年代別千人率

年代別の千人率は、各年代の人員を1,000人とした場合の年間発生件数である。
過去10年を見ると、10歳代（第1位6回、第2位1回、第3位1回）が最も多く、次いで20歳代（第1位3回、第2位6回）が続いている。若年層での災害発生が多いことがうかがえる。

（注）年代別千人率の算定における各年代の会員人数は、会員企業の実人員数ではなく、パルプ・紙・紙加工品製造業の各年代別人数（厚生労働省調査）をベースに比例計算したものである。従って、年代別千人率の値はあくまで参考として見ていただきたい。

年齢	紙パ人数	会員人数	休業	不休	合計
１０歳代	2,070	254	3.94	7.87	11.81
２０歳代	22,400	2,744	2.19	3.64	5.83
３０歳代	28,930	3,544	1.41	2.54	3.95
４０歳代	38,910	4,767	1.68	3.36	5.03
５０歳代	38,890	4,764	2.31	1.26	3.57
６０歳代	12,190	1,493	1.34	3.35	4.69
７０歳代	1,610	197			
計	144,990	17,763	1.86	2.7	4.56

＊千人率＝1,000÷年代別人員×年代別件数

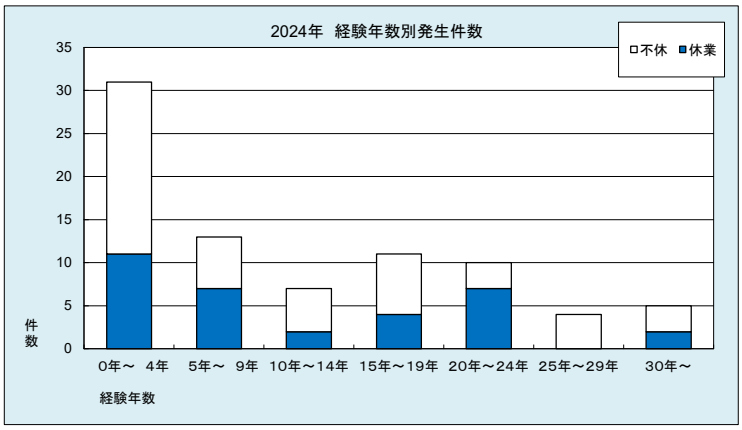


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	１０歳代 11.81件	２０歳代 10.20件	１０歳代 18.07件	２０歳代 5.56件	２０歳代 6.95件	１０歳代 10.08件	１０歳代 8.60件	１０歳代 13.11件	４０歳代 3.79件	１０歳代 11.14件
２位	２０歳代 5.83件	３０歳代 5.13件	２０歳代 7.42件	40歳代/60歳代 5.10件	１０歳代 4.72件	３０歳代 5.05件	２０歳代 4.69件	２０歳代 5.66件	２０歳代 3.28件	２０歳代 4.72件
３位	４０歳代 5.03件	１０歳代 4.02件	５０歳代 5.30件	３０歳代 4.61件	４０歳代 3.59件	４０歳代 3.91件	３０歳代 3.33件	３０歳代 3.77件	５０歳代 2.16件	３０歳代 4.05件

３.経験年数別発生件数

経験年数別発生件数は、過去10年、「5年未満」（第1位9回、第2位1回）が最も多く、次いで「5年～9年」（第1位1回、第2位6回、第3位2回）が続いている。両者を合計すると、この10年間、毎年災害全体の33%～68%を占めており、若年層さらには配転者を含めた短経験者に対する教育が極めて重要であることがわかる。

経験年数	休業	不休	合計	占率
０年～　４年	11	20	31	38%
５年～　９年	7	6	13	16%
１０年～１４年	2	5	7	9%
１５年～１９年	4	7	11	14%
２０年～２４年	7	3	10	12%
２５年～２９年		4	4	5%
３０年～	2	3	5	6%
計	33	48	81	100%

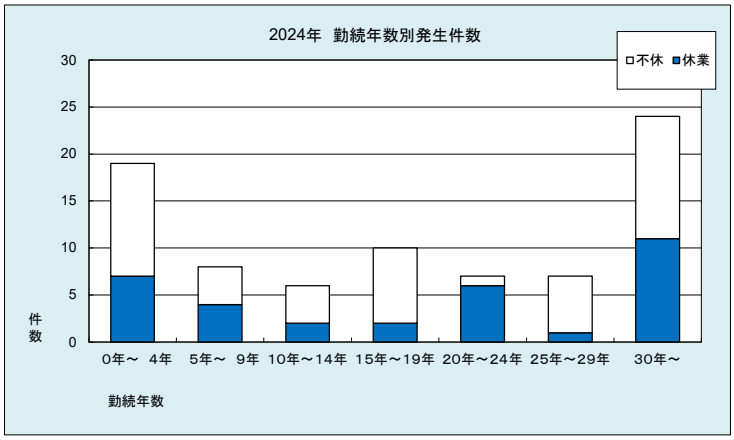


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	０～４年 31件(38%)	０～４年 40件(51%)	０～４年 40件(43%)	０～４年 26件(30%)	０～４年 20件(30%)	０～４年 23件(33%)	０～４年 20件(33%)	５～９年 21件（33%）	０～４年 13件(28%)	０～４年 15件（23%）
２位	５～９年 13件(16%)	５～９年 13件(17%)	５～９年 13件(14%)	５～９年 18件(21%)	５～９年 18件(27%)	１５～１９年 12件(17%)	１０～１４年 ２５～２９年 10件（17%）	０～４年 18件（29%）	５～９年 12件（26%）	１５～１９年 ２５～２９年 10件（15%）
３位	１５～１９年 11件(14%)	２０～２４年 10件(13%)	１０～１４年 12件(13%)	１５～１９年 14件(16%)	２０～２４年 10件(15%)	１０～１４年 9件(13%)	５～９年 8件（13%）	１０～１４年 １５～２０年 6件（10%）	10～14年 7件（15%）	５～９年 ２０～２４年 8件（12%）

４.勤続年数別発生件数

過去10年の勤続年数別の発生件数を見ると、「5年未満」（第1位7回、第2位2回、第3位1回）が最も多い。
但し、どの勤続年数の災害発生が多いかは、勤続年数別の構成人員が異なるためこの件数のみでは比較できない。
次項の勤続年数別千人率も参照願いたい。

勤続年数	休業	不休	合計	占率
０年～　４年	7	12	19	23%
５年～　９年	4	4	8	10%
１０年～１４年	2	4	6	7%
１５年～１９年	2	8	10	12%
２０年～２４年	6	1	7	9%
２５年～２９年	1	6	7	9%
３０年～	11	13	24	30%
計	33	48	81	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	３０年～ 24件（30%）	０～４年 26件（33%）	０～４年 27件（29%）	３０年～ 18件（21%）	０～４年 16件（24%）	０～４年 18件（26%）	０～４年 17件（28%）	０～４年 13件（21%）	２５～２９年 11件（23%）	０～４年 26件（39%）
２位	０～４年 19件(23%)	３０年～ 15件（19%）	３０年～ 23件（25%）	０～４年 16件（18%）	５～９年 15件（23%）	１５～１９年 ２５～２９年 12件（17%）	２５～２９年 10件(17%)	１０～１４年 ２５～２９年 10件（16%）	２０～２４年 10件(21%)	５～９年 １５～１９年 9件（14%）
３位	１５～１９年 10件(12%)	５～９年 13件（17%）	２５～２９年 12件（13%）	１５～１９年 ２５～２９年 14件（16%）	３０年～ 13件（20%）	３０年～ 11件（16%）	３０年～ 9件(15%)	３０年～ 9件（14%）	０～４年 9件(19%)	２０～２４年 7件(11%)

５.勤続年数別千人率

勤続年数別千人率は、各勤続の人員を1,000人に置き換えたものである。

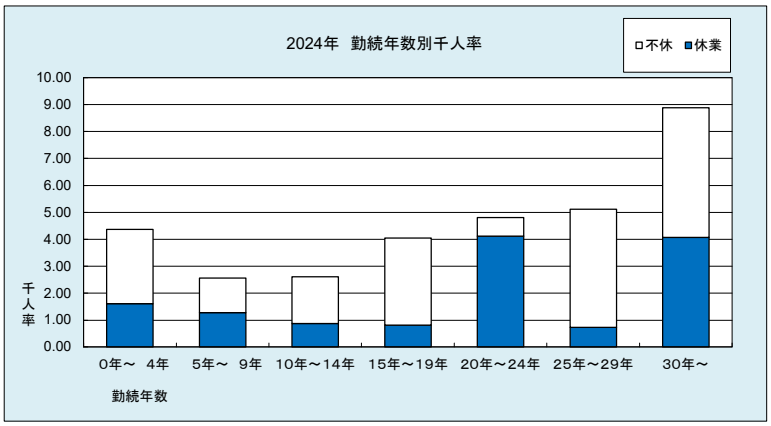
過去10年間の勤続年数と災害発生件数の関係を見ると、「25年～29年」（第1位5回、第2位3回）、「30年～」（第1位3回、第2位3回、第3位2回）、「20年～24年」（第1位1回、第2位1回、第3位5回）が目立つ。

前記３の、短経験者に災害が多いということも考え合わせると、長勤続の配置転換者の災害発生が多いことがうかがえる。

（注）勤続年数別千人率算定における各勤続年数毎の会員人数は、会員企業の実人員数ではなく、パルプ・紙・紙加工品製造業の各勤続別人数（厚生労働省調査）をベースに比例計算したものである。従って、勤続年数別千人率の値はあくまでも参考として見ていただきたい。

勤続年数	紙パ人数	会員人数	休業	不休	合計
０年～　４年	35,440	4,342	1.61	2.76	4.38
５年～　９年	25,560	3,131	1.28	1.28	2.56
１０年～１４年	18,740	2,296	0.87	1.74	2.61
１５年～１９年	20,160	2,470	0.81	3.24	4.05
２０年～２４年	11,890	1,457	4.12	0.69	4.80
２５年～２９年	11,150	1,366	0.73	4.39	5.12
３０年～	22,050	2,701	4.07	4.81	8.89
計	144,990	17,763	1.86	2.7	4.56

＊千人率＝1,000÷勤続年数別人員×勤続年数別件数

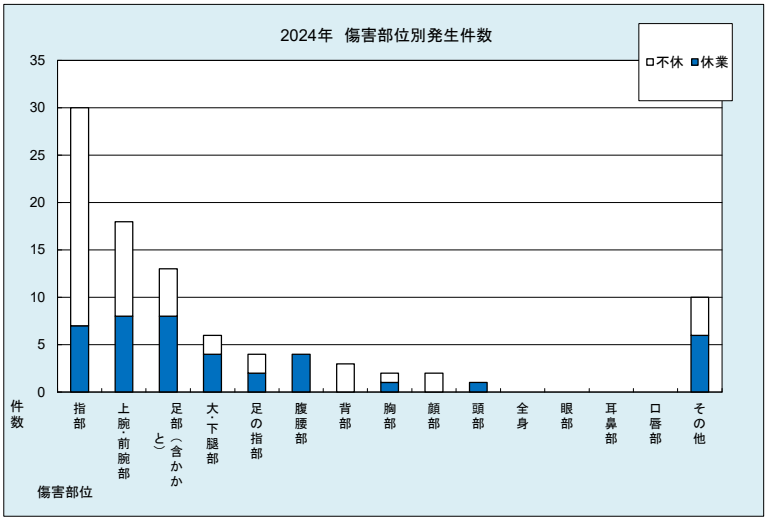


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	３０年～ 8.89件	３０年～ 5.62件	３０年～ 7.85件	２５年～２９年 9.07件	２０年～２４年 6.13件	２５年～２９年 6.85件	２５年～２９年 4.85件	２５年～２９年 5.34件	２５年～２９年 6.70件	０年～４年 5.97件
２位	２５年～２９年 5.12件	０年～４年 5.58件	２５年～２９年 7.19件	３０年～ 6.82件	５～９年 ２５～２９年 5.42件	１５年～１９件 6.67件	３０年～ 4.10件	３０年～ 4.47件	２０年～２４年 5.60件	１５年～１９件 4.07件
３位	２０年～２４年 4.80件	２０年～２４年 5.50件	０年～４年 6.33件	１５年～１９件 6.49件	３０年～ 5.23件	２０年～２４年 4.50件	０年～４年 3.78件	２０年～２４年 4.17件	３０年～ 2.59件	２０年～２４年 3.54件

６.傷害の部位別発生件数

傷害の部位は、「指部」が過去10年連続して第1位で圧倒的に多く、次いで「上腕・前腕部」（第2位7回、第3位3回）が続いている。

傷害の部位	休業	不休	合計	占率
指部	7	23	30	32%
上腕･前腕部	8	10	18	19%
足部（含かかと）	8	5	13	14%
大･下腿部	4	2	6	6%
足の指部	2	2	4	4%
腹腰部	4		4	4%
背部		3	3	3%
胸部	1	1	2	2%
顔部		2	2	2%
頭部	1		1	1%
全身				
眼部				
耳鼻部				
口唇部				
その他	6	4	10	11%
計	41	52	93	100%

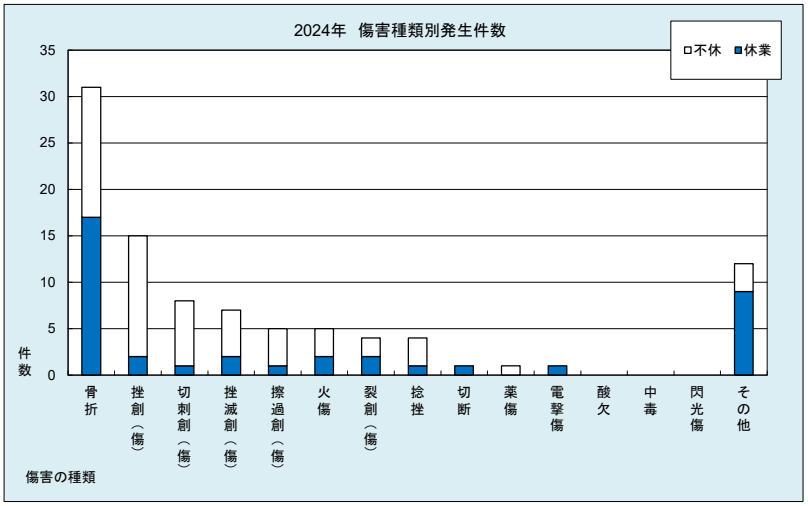


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	指部 30件（32%）	指部 30件（31%）	指部 38件（34%）	指部 32件（33%）	指部 25件（35%）	指部 26件（33%）	指部 23件(35%)	指部 31件(42%)	指部 13件(28%)	指部 30件（43%）
２位	上腕･前腕部 18件（19%）	足部(含かかと) 12（13%）	上腕・前腕部 18件（16%）	足部(含かかと) 14件（15%）	上腕・前腕部 13件(18%)	上腕・前腕部 13件(16%)	上腕・前腕部 8件(12%)	足部(含かかと) 11件(15%)	上腕・前腕部 9件(19%)	上腕・前腕部 9件（13%）
３位	足部(含かかと) 13件（14%）	上腕・前腕部 11件（11%）	足部(含かかと) 12件（11%）	上腕・前腕部 12件（13%）	足部(含かかと) 9件（13%）	足部(含かかと) 11件（14%）	足部(含かかと) 7件（11%）	上腕・前腕部 7件（10%）	足部(含かかと) 6件（13%）	足部(含かかと) 6件（9%）

7 傷害の種類別発生件数

過去10年を見ると、「骨折」（第1位9回、第2位1回）が圧倒的に多く、次いで「挫創（傷）」（第1位1回、第2位8回）が続いている。

傷害の種類	休業	不休	合計	占率
骨折	17	14	31	33%
挫創（傷）	2	13	15	16%
切刺創（傷）	1	7	8	9%
挫滅創（傷）	2	5	7	7%
擦過創（傷）	1	4	5	5%
火傷	2	3	5	5%
裂創（傷）	2	2	4	4%
捻挫	1	3	4	4%
切断	1		1	1%
薬傷		1	1	1%
電撃傷	1		1	1%
酸欠				
中毒				
閃光傷				
その他	9	3	12	13%
計	39	55	94	100%

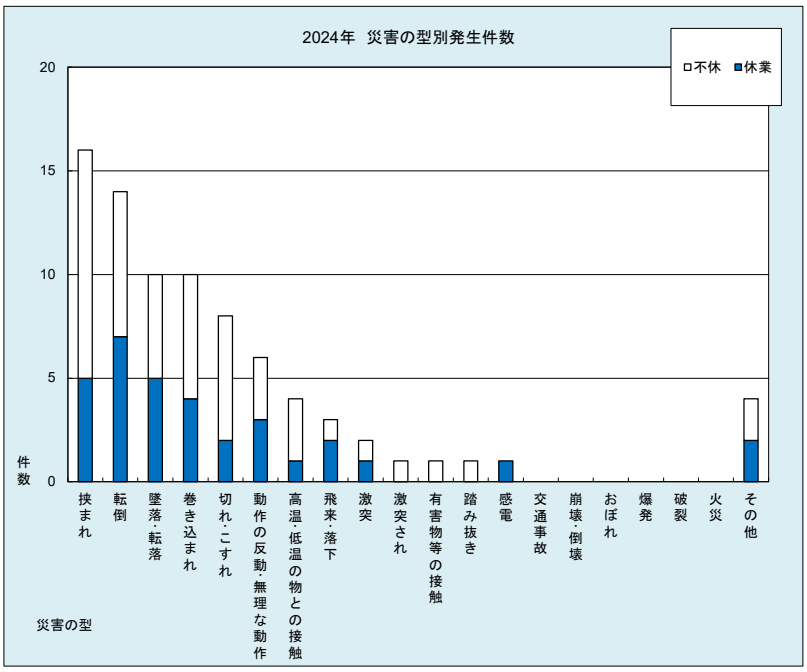


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	骨折 31件（33%）	骨折 31件（33%）	骨折 30件（28%）	骨折 30件（29%）	骨折 19件（26%）	骨折 25件（32%）	骨折 19件（30%）	挫創（傷） 13件（19%）	骨折 12件（18%）	骨折 24件（35%）
2位	挫創（傷） 15件（16%）	挫創（傷） 13件（14%）	挫創（傷） 14件（13%）	挫創（傷） 17件（17%）	切刺創（傷） 13件（18%）	挫創（傷） 13件（17%）	挫創（傷） 9件（14%）	骨折 12件（18%）	挫創（傷）/切刺創（傷）/火傷 5件（7%）	挫創（傷） 11件(16%)
3位	切刺創（傷） 8件（9%）	裂創（傷）/切刺創（傷） 9件（10%）	火傷/切刺創（傷） 9件（8%）	裂創（傷） 16件（16%）	裂創（傷） 8件（11%）	切刺創（傷） 8件（10%）	裂創（傷） 7件（11%）	切刺創（傷） 11件（16%）	裂創（傷） 4件（6%）	切刺創（傷） 9件（13%）

8 災害の型別発生件数

過去10年を見ると、「挟まれ」（第1位8回、第2位2回）が最も多く、次いで「切れ･こすれ」（第1位2回、第2位5回、第3位2回）、「転倒」（第1位1回、第2位3回、第3位2回）、「巻き込まれ」（第2位1回、第3位5回）が続いている。

災害の型	休業	不休	合計	占率
挟まれ	5	11	16	20%
転倒	7	7	14	17%
墜落･転落	5	5	10	12%
巻き込まれ	4	6	10	12%
切れ･こすれ	2	6	8	10%
動作の反動･無理な動作	3	3	6	7%
高温･低温の物との接触	1	3	4	5%
飛来･落下	2	1	3	4%
激突	1	1	2	2%
激突され		1	1	1%
有害物等の接触		1	1	1%
踏み抜き		1	1	1%
感電	1		1	1%
交通事故				
崩壊･倒壊				
おぼれ				
爆発				
破裂				
火災				
その他	2	2	4	5%
計	33	48	81	100%

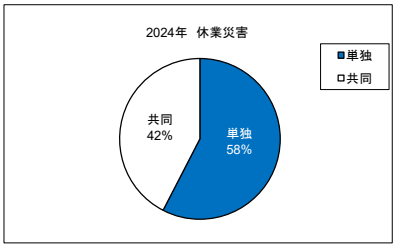


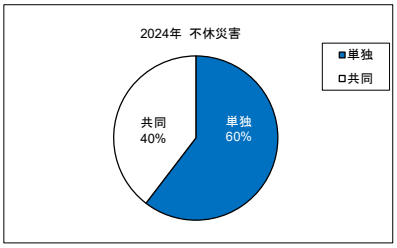
順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	挟まれ 16件（20%）	挟まれ 20件（25%）	挟まれ 20件（21%）	挟まれ/切れ・こすれ 18件（20%）	挟まれ 17件（25%）	挟まれ 13件（18%）	挟まれ 14件（23%）	挟まれ 19件（30%）	転倒 9件（19%）	切れ・こすれ 15件（22%）
2位	転倒 14件（17%）	切れ・こすれ 12件（15%）	墜落・転落/巻き込まれ 11件（12%）	転倒 14件（16%）	切れ・こすれ 10件（14%）	転倒 11件（15%）	切れ・こすれ 9件（15%）	切れ・こすれ 12件（19%）	挟まれ/切れ・こすれ 7件（15%）	挟まれ 11件(16%)
3位	墜落・転落/巻き込まれ 10件（12%）	動作の反動･無理な動作 10件（13%）	切れ・こすれ 10件（11%）	巻き込まれ 8件（9%）	転倒/巻き込まれ 7件（10%）	切れ・こすれ 9件（13%）	墜落・転落 7件（11%）	巻き込まれ 8件（13%）	墜落・転落 6件（13%）	転倒/巻き込まれ 9件（13%）

９.作業形態別発生件数

災害発生時の作業形態は、単独作業時が圧倒的に多く、過去10年間平均で災害全体の約65%を占めている。

作業形態	休業	不休	合計	占率
単独	19	29	48	59%
共同	14	19	33	41%
計	33	48	81	100%



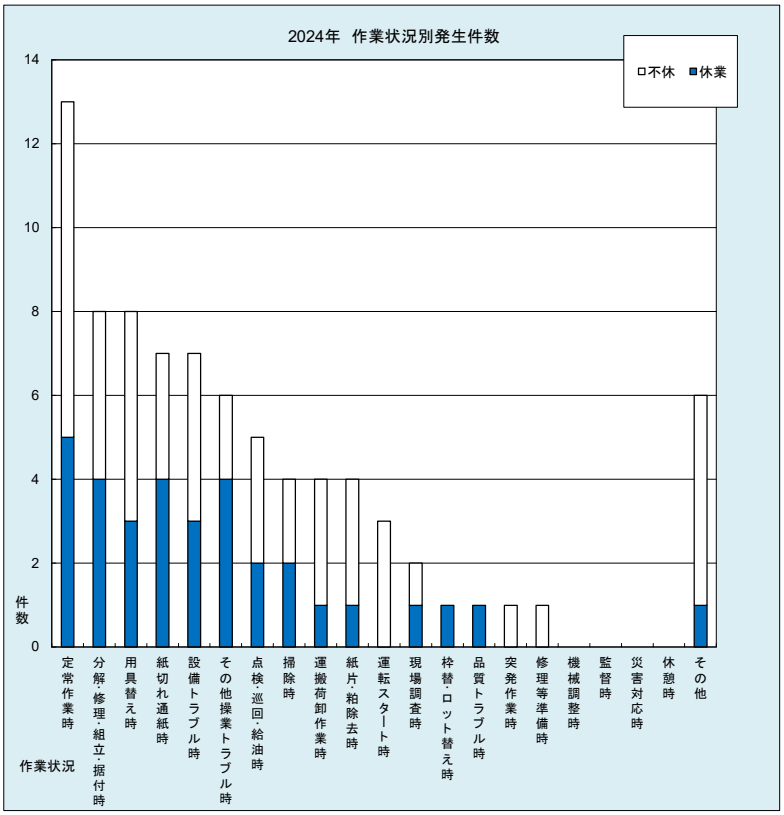


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	単独 48件（59%）	単独 48件（62%）	単独 55件（60%）	単独 58件（67%）	単独 48件（73%）	単独 45件（65%）	単独 31件（52%）	単独 46件（73%）	単独 34件（72%）	単独 45件（68%）
２位	共同 33件（41%）	共同 30件（38%）	共同 37件（40%）	共同 29件（33%）	共同 18件（27%）	共同 24件（35%）	共同 29件（48%）	共同 17件（27%）	共同 13件（47%）	共同 21件（32%）

10.作業状況別発生件数

災害発生時の作業状況は、過去10年を見ると、「定常作業時」が災害全体の12%～22%であり、「非定常作業時」が78%～88%と圧倒的に多いことがわかる。また、「非定常作業」で目立つのは、「掃除時」（第1位1回、第2位2回、第3位4回）、「設備トラブル時」（第2位3回、第3位3回）、「分解･修理･組立･据付時」（第2位3回、第3位1回）である。

作業状況	休業	不休	合計	占率
定常作業時	5	8	13	16%
分解･修理･組立･据付時	4	4	8	10%
用具替え時	3	5	8	10%
紙切れ通紙時	4	3	7	9%
設備トラブル時	3	4	7	9%
その他操業トラブル時	4	2	6	7%
点検･巡回･給油時	2	3	5	6%
掃除時	2	2	4	5%
運搬荷卸作業時	1	3	4	5%
紙片･粕除去時	1	3	4	5%
運転スタート時		3	3	4%
現場調査時	1	1	2	2%
枠替･ロット替え時	1		1	1%
品質トラブル時	1		1	1%
突発作業時		1	1	1%
修理等準備時		1	1	1%
機械調整時				
監督時				
災害対応時				
休憩時				
その他	1	5	6	7%
計	33	48	81	100%

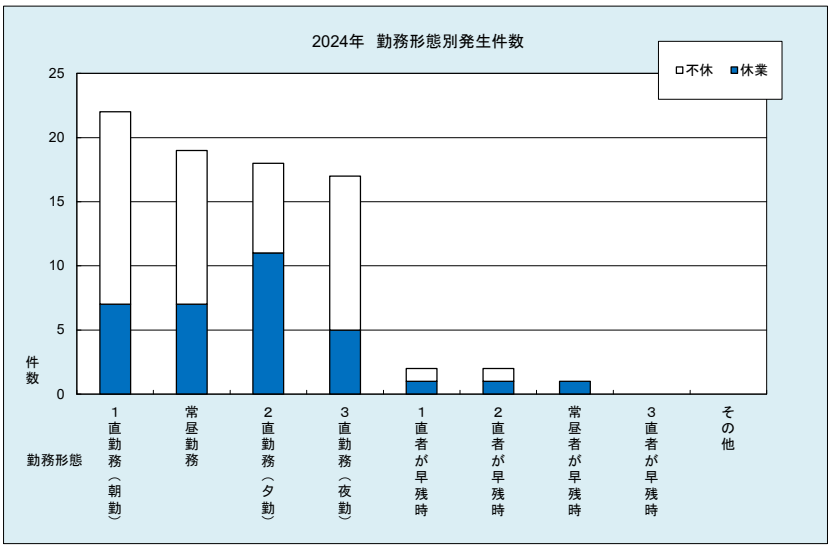


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	定常作業時 13件（16%）	定常作業時 15件（19%）	定常作業時 14件（15%）	定常作業時 15件（17%）	掃除時 11件（17%）	定常作業時 13件（18%）	定常作業時 9件（14%）	定常作業時 10件（16%）	定常作業時 11件（22%）	定常作業時 11件（16%）
２位	分解･修理･ 組立･据付時 8件（10%）	分解･修理･ 組立･据付時 10件（13%）	分解･修理･ 組立･据付時 12件（13%）	掃除時 13件（15%）	設備トラブル時 9件（14%）	設備トラブル時 11件（15%）	掃除時 8件（12%）	設備トラブル時 6件（10%）	紙片･粕除去時 6件（12%）	紙切れ通紙時 9件（13%）
３位	用具替え時 8件（10%）	掃除時/ 設備トラブル時 6件（8%）	掃除時/ 設備トラブル時 10件（11%）	用具替え時 7件（8%）	定常作業時 8件（12%）	掃除時 8件（11%）	設備トラブル時 5件（8%）	紙切れ通紙時/ 紙片･粕除去時/ 点検･巡回･給油時 5件（8%）	紙切れ通紙時 /掃除時 5件（10%）	分解･修理･ 組立･据付時 5件（7%）

11.勤務形態別発生件数

勤務形態による発生件数は、過去10年間では「1直勤務（朝勤）」が最も多く（第1位5回）、次いで「常昼勤務」が多い（第1位4回）

勤務形態	休業	不休	合計	占率
１直勤務（朝勤）	7	15	22	27%
常昼勤務	7	12	19	23%
２直勤務（夕勤）	11	7	18	22%
３直勤務（夜勤）	5	12	17	21%
１直者が早残時	1	1	2	2%
２直者が早残時	1	1	2	2%
常昼者が早残時	1		1	1%
３直者が早残時				
その他				
計	33	48	81	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	１直勤務(朝勤) 22件（27%）	常昼勤務 23件（29%）	常昼勤務 38件（41%）	常昼勤務 28件（32%）	１直勤務(朝勤) 18件（27%）	３直勤務(夜勤) 21件（30%）	１直勤務（朝勤） 25件（42%）	１直勤務（朝勤） ２直勤務（夕勤） 11件（23%）	１直勤務（朝勤） ２直勤務（夕勤） 11件（23%）	常昼勤務 24件（35%）
２位	常昼勤務 19件（23%）	１直勤務(朝勤) 17件（22%）	１直勤務（朝勤） 22件（24%）	１直勤務(朝勤) 26件（30%）	常昼勤務 16件（24%）	１直勤務(朝勤) 17件（25%）	２直勤務（夕勤） 常昼勤務 11件（18%）	常昼勤務 10件（21%）	常昼勤務 10件（21%）	３直勤務(夜勤) 16件（23%）
３位	２直勤務（夕勤） 18件（22%）	３直勤務(夜勤) 16件（21%）	３直勤務（夜勤） 15件（16%）	２直勤務（夕勤） ３直勤務（夜勤） 13件（15%）	２直勤務(夕勤) 13件（20%）	常昼勤務 16件（23%）	２直者が早残時 5件（8%）	３直勤務(夜勤) 9件（19%）	３直勤務(夜勤) 9件（19%）	２直勤務(夕勤) 13件（19%）

12.工程別発生件数

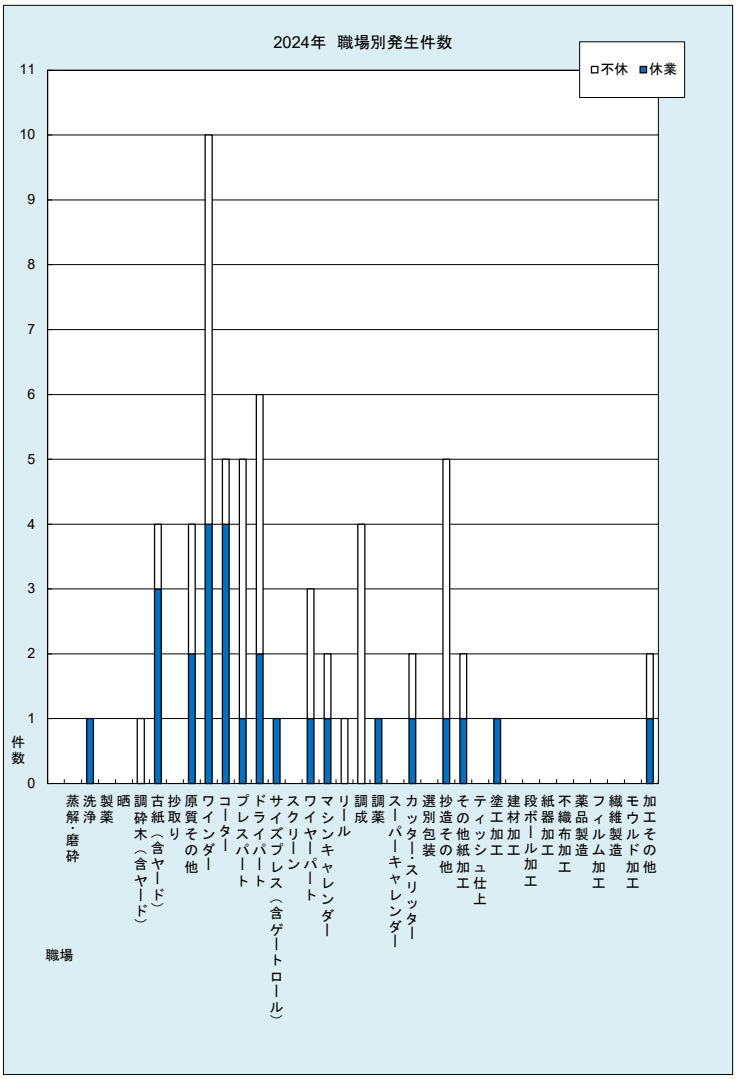
災害発生の工程は、原質・抄造・加工については職場毎に、動力・施設・その他の部門については職種毎に集計している。

過去10年を見てもワインダー（第1位7回、第2位3回）での災害が圧倒的に多い。次いで、ドライパート（第1位1回、第3位3回）、汽缶（第1位1回、第2位1回、第3位1回）、抄造その他（第2位3回、第3位2回）が続いている。

また、部門別の災害発生状況を見ると、抄造部門が過去10年連続第1位であり、この10年間、毎年災害全体の35%～62%が抄造部門で発生している。

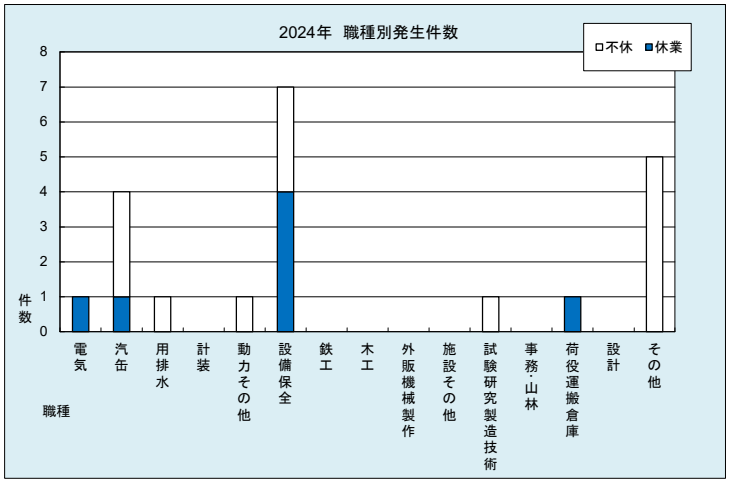
（１）職場

職場		休業	不休	合計	占率
原質	蒸解･磨砕				
	洗浄	1		1	1%
	製薬				
	晒				
	調砕木（含ヤード）		1	1	1%
	古紙（含ヤード）	3	1	4	5%
	抄取り				
	原質その他	2	2	4	5%
抄造	ワインダー	4	6	10	12%
	コーター	4	1	5	6%
	プレスパート	1	4	5	6%
	ドライパート	2	4	6	7%
	サイズプレス（含ゲートロール）	1		1	1%
	スクリーン				
	ワイヤーパート	1	2	3	4%
	マシンキャレンダー	1	1	2	2%
	リール		1	1	1%
	調成		4	4	5%
	調薬	1		1	1%
	スーパーキャレンダー				
	カッター･スリッター	1	1	2	2%
	選別包装				
	抄造その他	1	4	5	6%
加工	その他紙加工	1	1	2	2%
	ティッシュ仕上				
	塗工加工	1		1	1%
	建材加工				
	段ボール加工				
	紙器加工				
	不織布加工				
	薬品製造				
	フィルム加工				
	繊維製造				
	モウルド加工				
	加工その他	1	1	2	2%



（２）職種

職種		休業	不休	合計	占率
動力	電気	1		1	1%
	汽缶	1	3	4	5%
	用排水		1	1	1%
	計装				
	動力その他		1	1	1%
施設	設備保全	4	3	7	9%
	鉄工				
	木工				
	外販機械製作				
	施設その他				
その他	試験研究製造技術		1	1	1%
	事務･山林				
	荷役運搬倉庫	1		1	1%
	設計				
	その他		5	5	6%



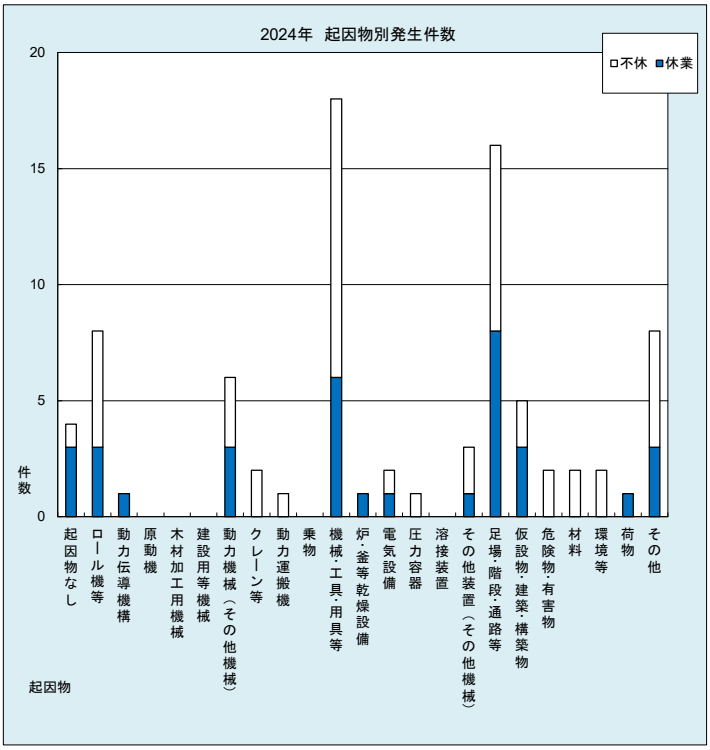
職場・職種　計	33	48	81	100%

順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	ワインダー 10件（12%）	ワインダー 10件（13%）	電気 9件（10%）	ワインダー 10件（11%）	ワインダー 9件（12%）	ワインダー 8件（12%）	ワインダー 8件（12%）	汽缶 8件（13%）	ドライパート 7件（15%）	ワインダー 10件（15%）
２位	設備保全 7件（9%）	抄造その他 7件（9%）	ワインダー/汽缶 7件（8%）	プレスパート 8件（8%）	コーター/汽缶 5件（7%）	抄造その他 7件（10%）	抄造その他 7件（11%）	ワインダー 6件（10%）	ワインダー 5件（11%）	ワイヤーパート 8件（12%）
３位	ドライパート 6件（7%）	設備保全 6件（8%）	コーター/ プレスパート 6件（7%）	ドライパート 7件（7%）	抄造その他 4件（5%）	原質その他 6件（9%）	プレスパート/ドライパート/汽缶 4件（6%）	ワイヤーパート/ プレスパート 5件（8%）	塗工加工 4件（9%）	抄造その他 6件（9%）
工程１位	抄造　56%	抄造　50%	抄造　35%	抄造　51%	抄造　45%	抄造　47%	抄造　60%	抄造　62%	抄造　47%	抄造　62%

13.起因物別発生件数

過去10年を見ると、災害の起因物として目立つのは、「ロール機等」（第1位4回、第2位2回、第3位4回）、「足場・階段・通路等」（第1位3回、第2位6回、第3位1回）、「機械・工具・用具等」（第1位4回、第2位2回、第3位4回）である。

起因物		休業	不休	合計	占率
起因物なし	起因物なし	3	1	4	5%
動力機械	ロール機等	3	5	8	10%
	動力伝導機構	1		1	1%
	原動機				
	木材加工用機械				
	建設用等機械				
	動力機械（その他機械）	3	3	6	7%
物上･運搬	クレーン等		2	2	2%
	動力運搬機		1	1	1%
	乗物				
その他装置	機械･工具･用具等	6	12	18	22%
	炉･釜等乾燥設備	1		1	1%
	電気設備	1	1	2	2%
	圧力容器		1	1	1%
	溶接装置				
	その他装置（その他機械）	1	2	3	4%
建築構築物	足場･階段･通路等	8	8	16	19%
	仮設物･建築･構築物	3	2	5	6%
物質･材料	危険物･有害物		2	2	2%
	材料		2	2	2%
その他	環境等		2	2	2%
	荷物	1		1	1%
	その他	3	5	8	10%
計		34	49	83	100%



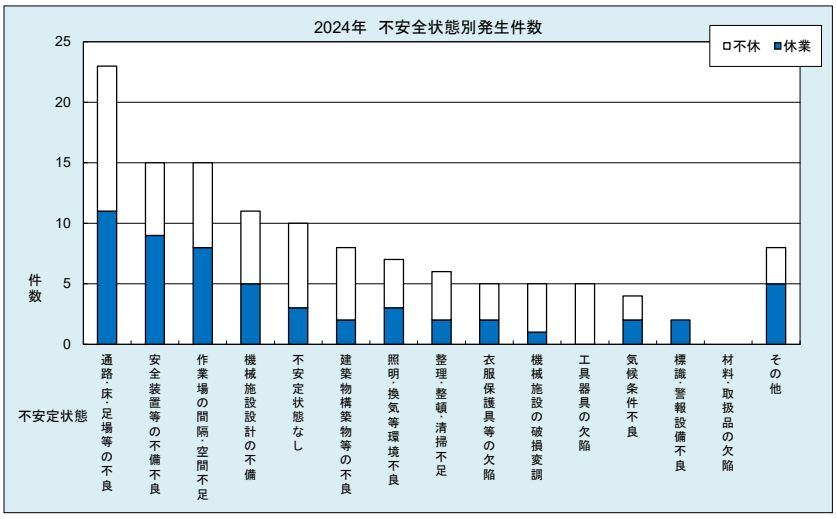
順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	機械･工具･用具等 18件（22%）	足場･階段･通路等 16件（20%）	ロール機等 16件（17%）	ロール機等 14件（16%）	ロール機等 12件（18%）	機械･工具･用具等/足場･階段･通路等 12件（17%）	足場･階段･通路等 9件（15%）	機械･工具･用具等 16件（25%）	ロール機等 10件（21%）	機械･工具･用具等 15件（21%）
2位	足場･階段･通路等 16件（19%）	機械･工具･用具等 14件（17%）	足場･階段･通路等 12件（13%）	足場･階段･通路等 13件（15%）	足場･階段･通路等 10件（15%）	ロール機等 9件（13%）	機械･工具･用具等 8件（13%）	足場･階段･通路等 11件（17%）	足場･階段･通路等 8件（17%）	ロール機等 12件（17%）
3位	ロール機等 8件（10%）	ロール機等 6件（7%）	機械･工具･用具等 11件（12%）	機械･工具･用具等 11件（13%）	機械･工具･用具等/その他装置（その他機械） 8件（12%）	仮設物･建築･構築物/環境等 5件（7%）	ロール機等/仮設物･建築･構築物 5件（8%）	ロール機等 8件（13%）	機械･工具･用具等 6件（13%）	足場･階段･通路等 9件（13%）

14.不安全状態別発生件数

過去10年を見ても、「不安全状態なし」の災害は2%～20%であり、「不安全状態がある」災害は80%～98%と圧倒的に多い。

具体的な「不安全状態」としては、「通路・床・足場等の不良」（第1位4回、第2位3回、第3位1回）が最も多く、次いで「安全装置等の不備不良」（第1位2回、第2位3回、第3位4回）が続いている。

不安全状態	休業	不休	合計	占率
通路･床･足場等の不良	11	12	23	19%
安全装置等の不備不良	9	6	15	12%
作業場の間隔･空間不足	8	7	15	12%
機械施設設計の不備	5	6	11	9%
不安定状態なし	3	7	10	8%
建築物構築物等の不良	2	6	8	6%
照明･換気等環境不良	3	4	7	6%
整理･整頓･清掃不足	2	4	6	5%
衣服保護具等の欠陥	2	3	5	4%
機械施設の破損変調	1	4	5	4%
工具器具の欠陥		5	5	4%
気候条件不良	2	2	4	3%
標識･警報設備不良	2		2	2%
材料･取扱品の欠陥				
その他	5	3	8	6%
計	55	69	124	100%

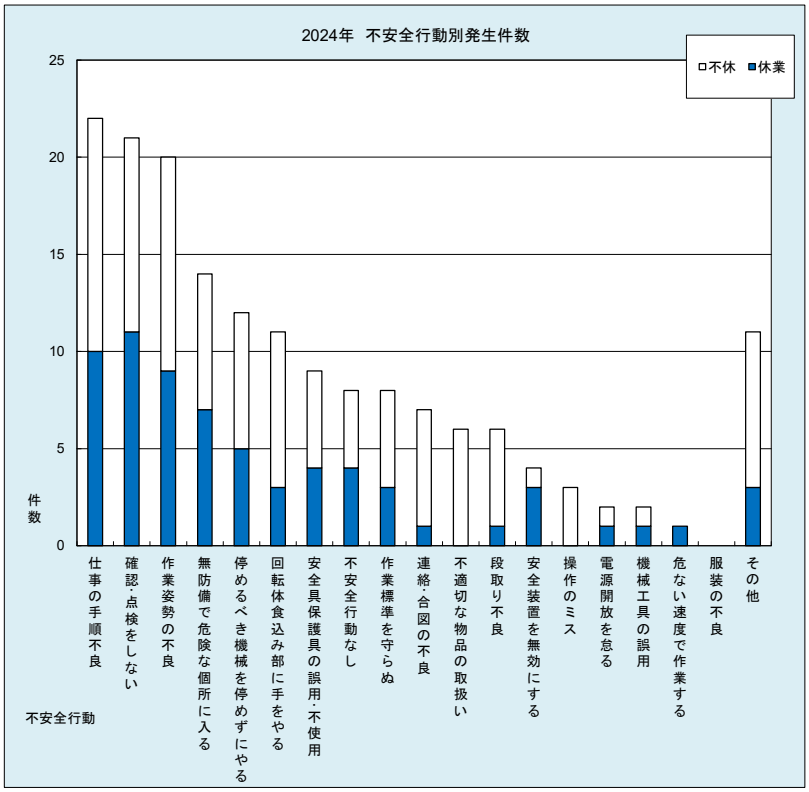


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	通路･床･足場等の不良 23件（19%）	通路･床･足場等の不良 16件（15%）	機械施設の破損変調 17件（15%）	作業場の間隔･空間不足 23件（20%）	通路･床･足場等の不良 14件（17%）	安全装置等の不備不良 19件（22%）	機械施設設計の不備 12件（19%）	通路･床･足場等の不良 15件（18%）	安全装置等の不備不良 11件（22%）	不安全状態なし 11件（20%）
2位	安全装置等の不備不良/作業場の間隔･空間不足 15件（12%）	建築物構築物等の不良 14件（13%）	不安全状態なし 14件（13%）	通路･床･足場等の不良 20件（17%）	安全装置等の不備不良 13件（15%）	通路･床･足場等の不良 15件（17%）	安全装置等の不備不良 9件（14%）	作業場の間隔･空間不足 14件（16%）	通路･床･足場等の不良 8件（16%）	機械施設設計の不備 10件（18%）
3位	機械施設設計の不備 11件（9%）	安全装置等の不備不良 13件（13%）	安全装置等の不備不良 13件（12%）	安全装置等の不備不良 14件（12%）	機械施設の破損変調 10件（12%）	機械施設の破損変調 11件（13%）	建築物構築物等の不良 8件（13%）	機械施設設計の不備 13件（15%）	不安全状態なし 6件（12%）	安全装置等の不備不良/通路･床･足場等の不良 9件（16%）

15.不安全行動別発生件数

過去10年間の具体的な「不安全行動」としては、「作業姿勢の不良」（第1位5回、第2位2回）、「確認・点検をしない」（第1位3回、第2位2回、第3位2回）、「安全具保護具の誤用・不使用」（第1位2回、第2位2回、第3位2回）、「仕事の手順不良」（第1位1回、第3位3回）、「回転体食込み部に手をやる」（第2位3回、第3位2回）が目立つ。

不安全行動	休業	不休	合計	占率
仕事の手順不良	10	12	22	13%
確認･点検をしない	11	10	21	13%
作業姿勢の不良	9	11	20	12%
無防備で危険な個所に入る	7	7	14	8%
停めるべき機械を停めずにやる	5	7	12	7%
回転体食込み部に手をやる	3	8	11	7%
安全具保護具の誤用･不使用	4	5	9	5%
不安全行動なし	4	4	8	5%
作業標準を守らぬ	3	5	8	5%
連絡･合図の不良	1	6	7	4%
不適切な物品の取扱い		6	6	4%
段取り不良	1	5	6	4%
安全装置を無効にする	3	1	4	2%
操作のミス		3	3	2%
電源開放を怠る	1	1	2	1%
機械工具の誤用	1	1	2	1%
危ない速度で作業する	1		1	1%
服装の不良				
その他	3	8	11	7%
計	67	100	167	100%

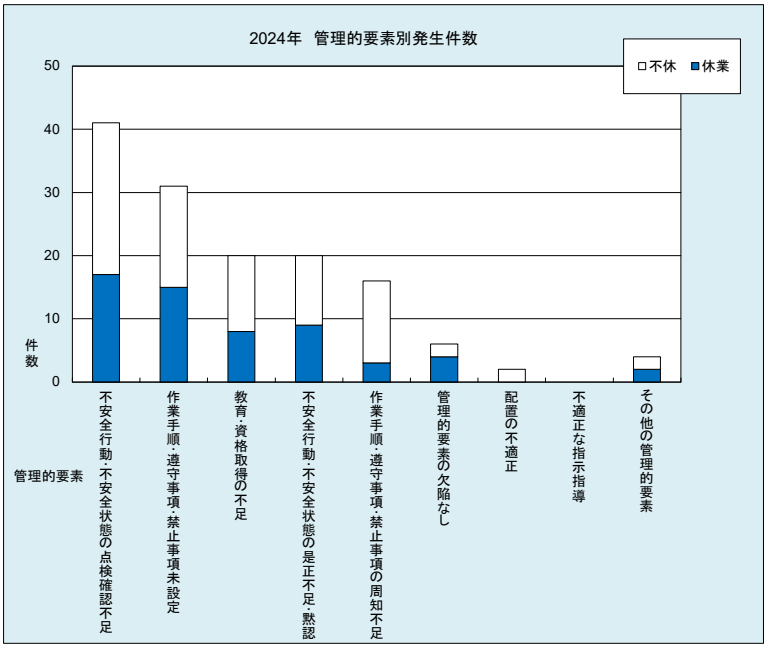


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	仕事の手順不良 22件(13%)	確認･点検をしない 26件(17%)	作業姿勢の不良 18件(10%)	確認･点検をしない 16件(11%)	作業姿勢の不良 13件(11%)	確認･点検をしない/ 不適切な物品の取扱い 15件(11%)	安全具保護具の誤用･ 不使用/ 作業姿勢の不良 11件(13%)	作業姿勢の不良 14件 (15%)	安全具保護具の 誤用･不使用 8件 (10%)	作業姿勢の不良 11件(11%)
２位	確認･点検をしない 21件(13%)	作業姿勢の不良 18件(12%)	回転体食込み部に 手をやる 17件(10%)	安全具保護具の誤用･ 不使用/ 作業姿勢の不良 15件(10%)	停めるべき機械を 停めずにやる/ 確認･点検をしない 12件(10%)	無防備で危険な 個所に入る 13件 (10%)	無防備で危険な 個所に入る 9件 (11%)	安全具保護具の 誤用･不使用 11件 (12%)	作業姿勢の不良/回転 体食込み部に手をやる 7件 (9%)	回転体食込み部に 手をやる 10件(10%)
３位	作業姿勢の不良 20件(12%)	仕事の手順不良 13件(9%)	安全具保護具の誤用･ 不使用/ 仕事の手順不良/ 連絡・合図の不良 16件(9%)	回転体食込み部に 手をやる 13件(9%)	回転体食込み部に 手をやる 11件(9%)	仕事の手順不良 12件(9%)	不安全行動なし 8件 (10%)	確認･点検をしない 10件 (11%)	停めるべき機械を 停めずにやる/ 確認･点検をしない 5件 (6%)	安全具保護具の 誤用･不使用 9件 (9%)

16.管理的要素別発生件数

「管理的要素の欠陥なし」の災害は少ない。過去10年の災害における「管理的要素の欠陥」は、「不安全行動・不安全状態の点検確認不足」が9年連続1位（第1位9回、第2位1回）、次いで「作業手順・遵守事項・禁止事項未設定」（第1位2回、第2位6回、第3位2回）が続いている。

管理的要素	休業	不休	合計	占率
不安全行動･不安全状態の点検確認不足	17	24	41	29%
作業手順･遵守事項･禁止事項未設定	15	16	31	22%
教育･資格取得の不足	8	12	20	14%
不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認	9	11	20	14%
作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足	3	13	16	11%
管理的要素の欠陥なし	4	2	6	4%
配置の不適正		2	2	1%
不適正な指示指導				
その他の管理的要素	2	2	4	3%
計	58	82	140	100%

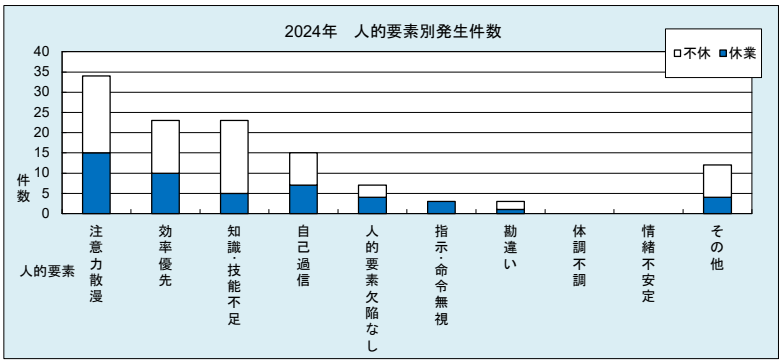


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 41件（29%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 47件（31%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 61件（39%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 45件（35%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 45件（43%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 32件（32%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 29件（34%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 29件（34%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足/作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 18件（25%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 25件（27%）
２位	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 31件（22%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足/作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 23件（15%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 26件（17%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 30件（24%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足/作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 16件（15%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 26件（26%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 20件（24%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 19件（22%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 12件（16%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 21件（23%）
３位	教育・資格取得の不足/不安全行動・不安全状態の是正不足・黙認 20件（14%）	教育・資格取得の不足/不安全行動・不安全状態の是正不足・黙認 21件（14%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 23件（15%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 18件（14%）	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 10件（10%）	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 16件（16%）	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 16件（19%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 13件（15%）	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 10件（14%）	教育･資格取得の不足 13件（14%）

17.人的要素別発生件数

「人的要素欠陥なし」の災害は少ない。過去10年では、「注意力散漫」（第1位8回、第2位2回）が最も多く、次いで「知識・技能不足」（第1位2回、第2位5回、第3位2回）、「自己過信」（第1位1回、第3位4回）、「効率優先」（第2位6回、第3位2回）が続いている。

人的要素	休業	不休	合計	占率
注意力散漫	15	19	34	28%
効率優先	10	13	23	19%
知識･技能不足	5	18	23	19%
自己過信	7	8	15	13%
人的要素欠陥なし	4	3	7	6%
指示･命令無視	3		3	3%
勘違い	1	2	3	3%
体調不調				
情緒不安定				
その他	4	8	12	10%
計	49	71	120	100%

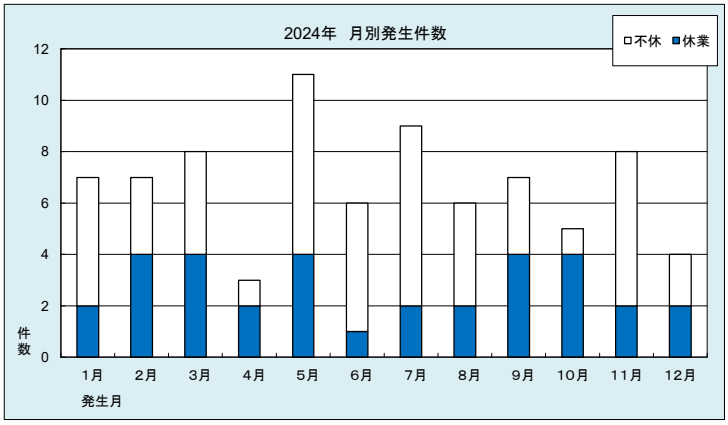


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	注意力散漫 34件（28%）	注意力散漫 30件（25%）	注意力散漫/知識・技能不足 33件（23%）	注意力散漫 35件（27%）	知識・技能不足 24件（25%）	注意力散漫 23件（24%）	注意力散漫 14件（20%）	注意力散漫 26件（33%）	自己過信 18件（30%）	注意力散漫 28件（38%）
２位	効率優先/知識・技能不足 23件（19%）	知識・技能不足 25件（20%）	効率優先 25件（18%）	効率優先 33件（25%）	注意力散漫 19件（20%）	効率優先 21件（22%）	知識・技能不足/効率優先 13件（19%）	効率優先 18件（23%）	知識・技能不足/注意力散漫 11件（18%）	知識・技能不足 10件（14%）
３位	自己過信 15件（13%）	自己過信 20件（16%）	勘違い 14件（10%）	自己過信 21件（16%）	効率優先 17件（18%）	知識・技能不足 20件（21%）	自己過信 12件（17%）	知識・技能不足 15件（19%）	指示・命令無視 6件（10%）	効率優先 9件（12%）

18 月別発生件数

過去10年で、トップ3に入った回数が5回以上あり災害発生が比較的多かった月は、5月（7回）、3月、7月（各6回）、1月、4月（各5回）である。

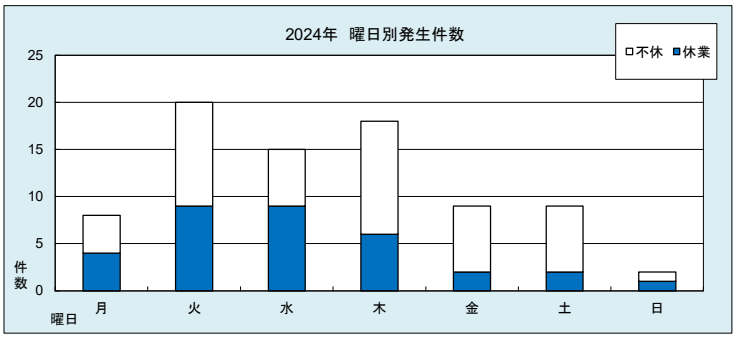
月	休業	不休	合計	占率
１月	2	5	7	9%
２月	4	3	7	9%
３月	4	4	8	10%
４月	2	1	3	4%
５月	4	7	11	14%
６月	1	5	6	7%
７月	2	7	9	11%
８月	2	4	6	7%
９月	4	3	7	9%
１０月	4	1	5	6%
１１月	2	6	8	10%
１２月	2	2	4	5%
計	33	48	81	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	５月 11件（14%）	１月/９月 11件（14%）	８月 15件（16%）	４月 13件（15%）	３月 10件（15%）	８月/１２月 8件（12%）	７月 10件（17%）	８月 8件（13%）	６月 9件（19%）	７月/４月 9件(14%)
２位	７月 9件（11%）	３月 9件（12%）	６月/１１月 10件（11%）	５月/７月 11件（13%）	１月/２月/７月 7件（11%）	６月/９月 7件（10%）	８月 8件（13%）	１月/５月 7件（11%）	９月 8件（17%）	５月/９月/ １１月/１２月 7件(11%)
３位	３月/１１月 8件（10%）	５月 8件（10%）	３月 9件（10%）	１０月/１１月 9件（10%）	４月 6件（9%）	１月/２月/３月/ ４月/５月 6件（9%）	５月/１０月 6件（10%）	３月/１２月 6件（10%）	４月/７月 5件（11%）	１月 5件(8%)

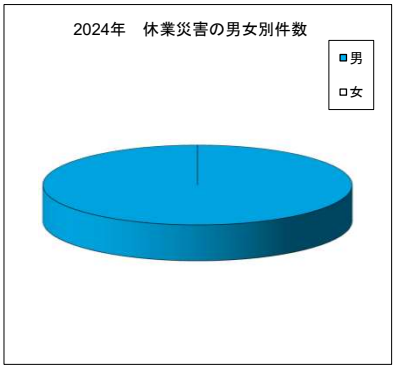
19 曜日別発生件数

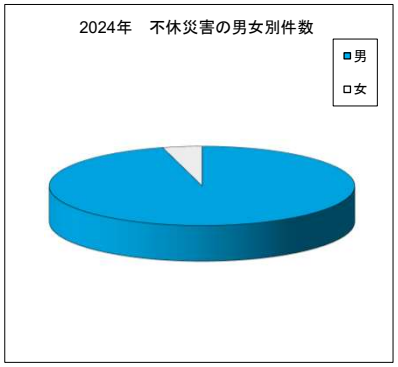
曜日	休業	不休	合計	占率
月	4	4	8	10%
火	9	11	20	25%
水	9	6	15	19%
木	6	12	18	22%
金	2	7	9	11%
土	2	7	9	11%
日	1	1	2	2%
計	33	48	81	100%



20 性別発生件数

性別	休業	不休	合計	占率
男	33	46	79	98%
女		2	2	2%
計	33	48	81	100%





２０２４年　災害要因分析　（含過去１０年間の推移）

（協力会）

★　災害要因分析要領

①　調査対象
この分析調査は、２０２４年１２月末現在の日本製紙連合会労務部会会員会社の協力会の休業災害及び不休災害を対象とした。

②　対象期間
対象期間は、２０２４年１月～１２月としたが、年の締日は各社の賃金締切日に合わせている。

③　対象範囲
対象期間中に発生した災害のうち、労務部に要因分析の連絡があったものを対象としているが、２０２４年は全ての災害について要因分析表が提出されている。
２０２４年の発生件数は、休業災害＝３７件、不休災害＝４２件、合計７９件
（前年比　→休業災害＝＋２件（内、死亡災害－１件）、不休災害＝＋４件）である。

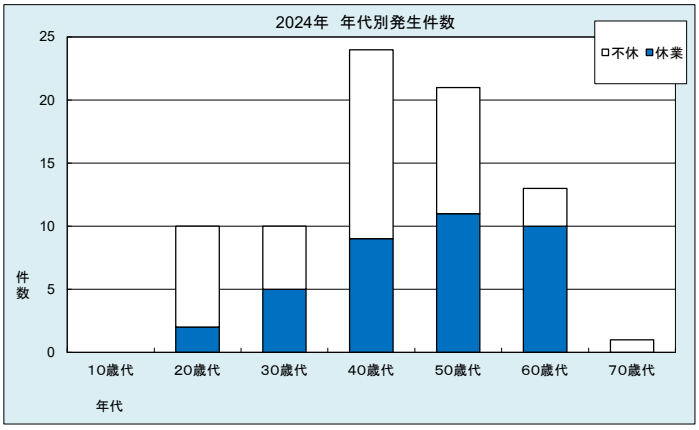
④　分析項目
分析項目の内、傷害の部位・傷害の種類・災害の型・作業状況等分析項目によっては複数の要素に該当することがあるため、合計数が災害発生件数と一致しないことがある。

⑤　会員会社の年代別人員及び勤続別人員
千人率を求める際の基礎人員は、厚生労働省調査「令和６年賃金構造基本統計調査」の紙パルプ産業全体人数より比例計算をして算出した。

１.年代別発生件数

過去10年の年代別の発生件数を見ると、「40歳代」（第1位8回、第2位2回）が最も多く、次いで「50歳代」（第1位2回、第2位6回、第3位2回）、「30歳代」（第2位3回、第3位4回）が続いている。但し、どの年代の災害発生が多いかは、年代毎の構成人員が異なるので、この件数のみでは比較できない。次項の年代別千人率も参照願いたい。

年齢	休業	不休	合計	占率
１０歳代				
２０歳代	2	8	10	13%
３０歳代	5	5	10	13%
４０歳代	9	15	24	30%
５０歳代	11	10	21	27%
６０歳代	10	3	13	16%
７０歳代		1	1	1%
計	37	42	79	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	４０歳代 24件（30%）	４０歳代 20件（27%）	４０歳代 22件（33%）	４０歳代 21件（27%）	５０歳代 27件（34%）	４０歳代 23件（29%）	４０歳代 21件（27%）	５０歳代 21件（28%）	４０歳代 25件（30%）	４０歳代 22件(30%)
２位	５０歳代 21件（27%）	５０歳代 17件（23%）	５０歳代 13件（19%）	５０歳代 17件（22%）	４０歳代 18件（23%）	５０歳代 17件（22%）	30歳代/50歳代 17件（22%）	４０歳代 19件（25%）	３０歳代 20件（24%）	３０歳代 16件(22%)
３位	６０歳代 13件（16%）	６０歳代 12件（16%）	３０歳代 10件（15%）	２０歳代 13件（17%）	３０歳代 11件（14%）	20歳代/30歳代 12件（15%）	２０歳代 15件（19%）	３０歳代 15件（20%）	５０歳代 14件（17%）	５０歳代 15件（20%）

２.年代別千人率

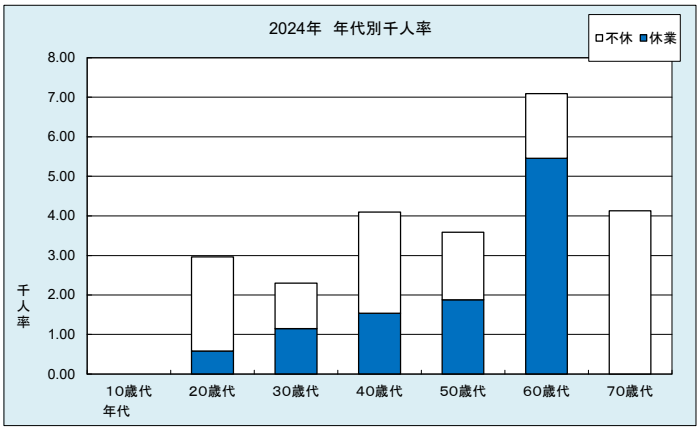
年代別の千人率は、各年代の人員を1,000人とした場合の年間発生件数である。

過去10年を見ると、「60歳代」（第1位3回、第2位4回、第3位3回）が最も多く、次いで「70歳代」（第1位4回、第2位1回）、「10歳代」（第1位2回、第2位1回、第3位1回）と続いており、近年は高年齢者の災害の増加がうかがえる。

（注）年代別千人率の算定における各年代の会員人数は、会員企業の実人員数ではなく、パルプ・紙・紙加工品製造業の各年代別人数（厚生労働省調査）をベースに比例計算したものである。従って、年代別千人率の値はあくまでも参考として見ていただきたい。

年齢	紙パ人数	会員人数	休業	不休	合計
１０歳代	2,070	311			
２０歳代	22,400	3,370	0.59	2.37	2.97
３０歳代	28,930	4,353	1.15	1.15	2.30
４０歳代	38,910	5,854	1.54	2.56	4.10
５０歳代	38,890	5,851	1.88	1.71	3.59
６０歳代	12,190	1,834	5.45	1.64	7.09
７０歳代	1,610	242		4.13	4.13
計	144,990	21,815	1.70	1.93	3.62

＊千人率＝1,000÷年代別人員×年代別件数

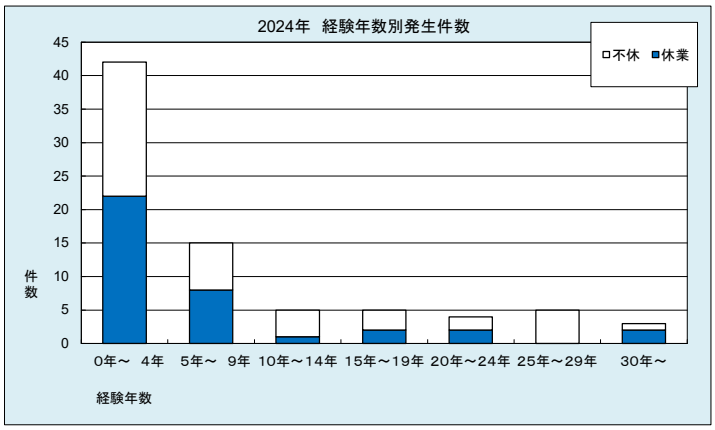


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	６０歳代 7.09件	７０歳代 10.64件	７０歳代 16.53件	７０歳代 11.43件	１０歳代 9.12件	７０歳代 12.66件	６０歳代 5.23件	１０歳代 6.88件	２０歳代 3.44件	６０歳代 4.04件
２位	７０歳代 4.13件	６０歳代 7.10件	１０歳代 7.23件	６０歳代 6.98件	５０歳代 5.33件	６０歳代 5.35件	２０歳代 4.69件	５０歳代 3.92件	６０歳代 3.37件	５０歳代 2.86件
３位	４０歳代 4.10件	４０歳代 3.35件	６０歳代 4.67件	２０歳代 3.40件	６０歳代 4.78件	１０歳代 3.85件	５０歳代 4.47件	６０歳代 3.46件	４０歳代 3.32件	４０歳代 2.84件

３ 経験年数別発生件数

経験年数別発生件数は、過去10年間「5年未満」が連続して第1位であり、毎年災害全体の38%～57%を占めている。次いで多いのが「5年～9年」（第2位10回）であり、短経験者の災害発生率が際立って高い。配転者を含めた短経験者に対する教育が極めて重要であると言える。

経験年数	休業	不休	合計	占率
０年～　４年	22	20	42	53%
５年～　９年	8	7	15	19%
１０年～１４年	1	4	5	6%
１５年～１９年	2	3	5	6%
２０年～２４年	2	2	4	5%
２５年～２９年		5	5	6%
３０年～	2	1	3	4%
計	37	42	79	100%

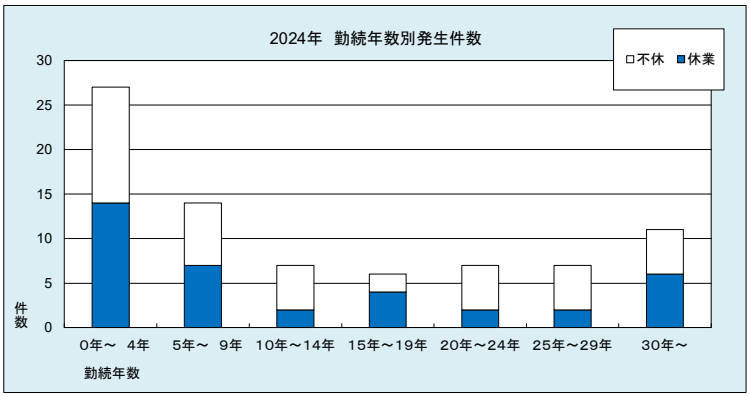


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	０年～４年 42件（53%）	０年～４年 40件（55%）	０年～４年 38件（57%）	０年～４年 29件（38%）	０年～４年 40件（50%）	０年～４年 44件（56%）	０年～４年 37件（47%）	０年～４年 33件（43%）	０年～４年 36件（44%）	０年～４年 42件(57%)
２位	５年～９年 15件（19%）	５年～９年 12件（16%）	５年～９年 10件（15%）	５年～９年 13件（17%）	５年～９年 13件（16%）	５年～９年 11件（14%）	５年～９年 17件（22%）	５年～９年 13件（20%）	５年～９年 １０年～１４年 15件(18%)	５年～９年 9件(12%)
３位	１０年～１４年 １５年～１９年 ２５年～２９年 5件（6%）	１０年～１４年 9件（12%）	１０年～１４年 8件（12%）	１５年～１９年 11件（14%）	３０年～ 8件（10%）	２０年～２４年 9件（11%）	１０年～１４年 13件（17%）	１０年～１４年 12件（16%）	５年～９年 9件(2%)	10年～14年 8件(11%)

４ 勤続年数別発生件数

過去10年の勤続年数別の件数を見ると、「5年未満」が10年連続で第1位であり、次いで「5年～9年」（第2位5回、第3位4回）が続いている。
但し、どの勤続年数で災害発生が多いかは、勤続年数別の構成人員が異なるため、この件数のみでは比較できない。
次項の勤続別千人率を参照願いたい。

勤続年数	休業	不休	合計	占率
０年～　４年	14	13	27	34%
５年～　９年	7	7	14	18%
１０年～１４年	2	5	7	9%
１５年～１９年	4	2	6	8%
２０年～２４年	2	5	7	9%
２５年～２９年	2	5	7	9%
３０年～	6	5	11	14%
計	37	42	79	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	０年～４年 27件（34%）	０年～４年 26件（36%）	０年～４年 25件（37%）	０年～４年 23件（30%）	０年～４年 32件（40%）	０年～４年 34件（43%）	０年～４年 27件（35%）	０年～４年 25件（33%）	０年～４年 21件（29%）	０年～４年 28件(38%)
２位	５年～９年 14件（18%）	３０年～ 12件（16%）	２０年～２４年 9件（13%）	１０年～１４年 ３０年～ 12件（16%）	５年～９年 18件（23%）	１０年～１４年 ２０年～２４年 10件（13%）	１０年～１４年 14件（18%）	５年～９年 13件（17%）	５年～９年 18件(25%)	５年～９年 12件(16%)
３位	３０年～ 11件（14%）	５年～９年 １０年～１４年 10件（14%）	５年～９年 １０年～１４年 8件（12%）	５年～９年 １５年～１９年 10件（13%）	３０年～ 12件（15%）	３０年～ 9件（11%）	５年～９年 12件（15%）	１０年～１４年 11件（14%）	１０年～１４年 15件(21%)	２５年～２９年 10件(14%)

５ 勤続年数別千人率

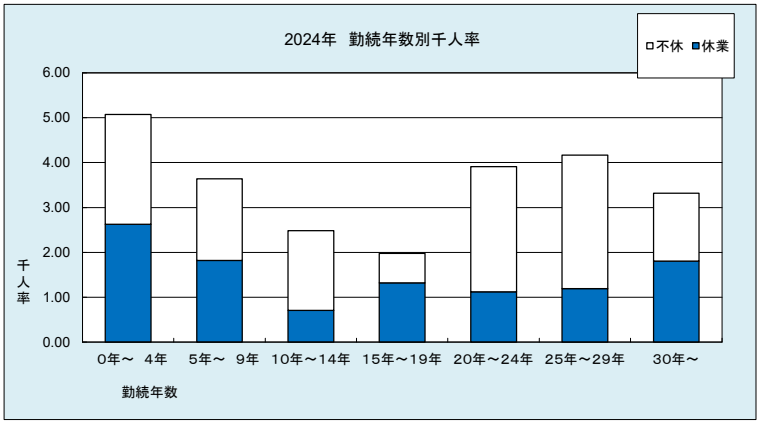
勤続年数別千人率は、各勤続の人員を1,000人に置き換えたものである。

過去10年間の勤続年数と災害発生件数の関係を見ると、「5年未満」（第1位8回、第2位1回、第3位1回）が最も多く、次いで、「10年～14年」（第1位1回、第2位3回、第3位2回）、「5年～9年」（第1位1回、第2位1回、第3位1回）が続いている。例外はあるにせよ、短勤続者＝短経験者であることから、前記３の短経験者に災害が多いことを裏付ける結果となっている。

（注）勤続年数別千人率算定における各勤続年数毎の会員人数は、会員企業の実人員数ではなく、パルプ・紙・紙加工品製造業の各勤続別人数（厚生労働省調査）をベースに比例計算したものである。従って、勤続年数別千人率の値はあくまでも参考として見ていただきたい。

勤続年数	紙パ人数	会員人数	休業	不休	合計
０年～　４年	35,440	5,332	2.63	2.44	5.06
５年～　９年	25,560	3,846	1.82	1.82	3.64
１０年～１４年	18,740	2,820	0.71	1.77	2.48
１５年～１９年	20,160	3,033	1.32	0.66	1.98
２０年～２４年	11,890	1,789	1.12	2.79	3.91
２５年～２９年	11,150	1,678	1.19	2.98	4.17
３０年～	22,050	3,318	1.81	1.51	3.32
計	144,990	21,815	1.70	1.93	3.62

＊千人率＝1,000÷勤続年数別人員×勤続年数別件数

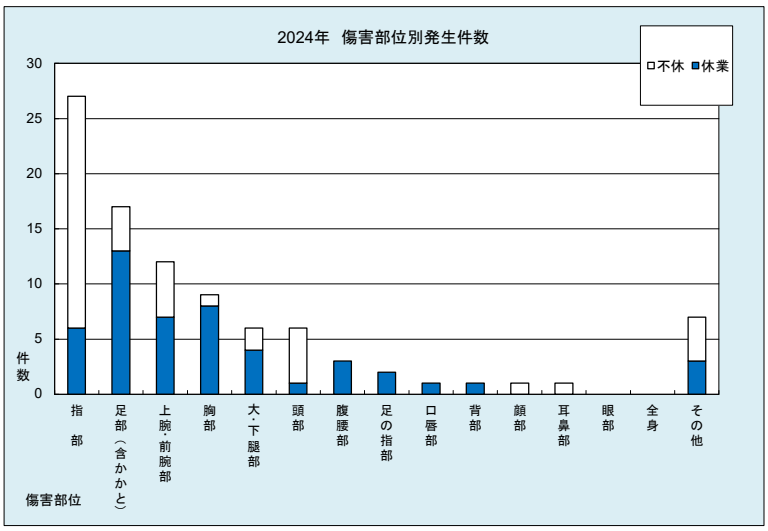


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	０年～４年 5.06件	０年～４年 4.54件	０年～４年 4.69件	０年～４年 3.80件	５年～９年 5.03件	０年～４年 5.22件	０年～４年 6.01件	０年～４年 3.77件	１０年～１４年 4.24件	０年～４年 4.46件
２位	２５年～２９年 4.17件	１０年～１４年 3.77件	２０年～２４年 4.39件	１５年～１９年 3.71件	０年～４年 4.87件	２０年～２４年 4.30件	１０年～１４年 5.77件	１０年～１４年 2.95件	５年～９年 3.21件	２５年～２９年 4.42件
３位	２０年～２４年 3.91件	３０年～ 3.66件	１５年～１９年 2.84件	１０年～１４年 3.65件	３０年～ 3.74件	３０年～ 2.79件	１５年～１９年 5.52件	５年～９年 2.80件	０年～４年 3.10件	１０年～１４年 2.44件

６ 傷害の部位別発生件数

傷害の部位は、過去10年間「指部」が連続第１位であり、災害全体の28%～43%を占めている。次いで多いのが「足部」（第2位6回、第3位4回）「上腕・前腕部」（第2位5回、第3位4回）である。

傷害の部位	休業	不休	合計	占率
指 部	6	21	27	29%
足部（含かかと）	13	4	17	18%
上腕･前腕部	7	5	12	13%
胸部	8	1	9	10%
大･下腿部	4	2	6	6%
頭部	1	5	6	6%
腹腰部	3		3	3%
足の指部	2		2	2%
口唇部	1		1	1%
背部	1		1	1%
顔部		1	1	1%
耳鼻部		1	1	1%
眼部				
全身				
その他	3	4	7	8%
計	49	44	93	100%

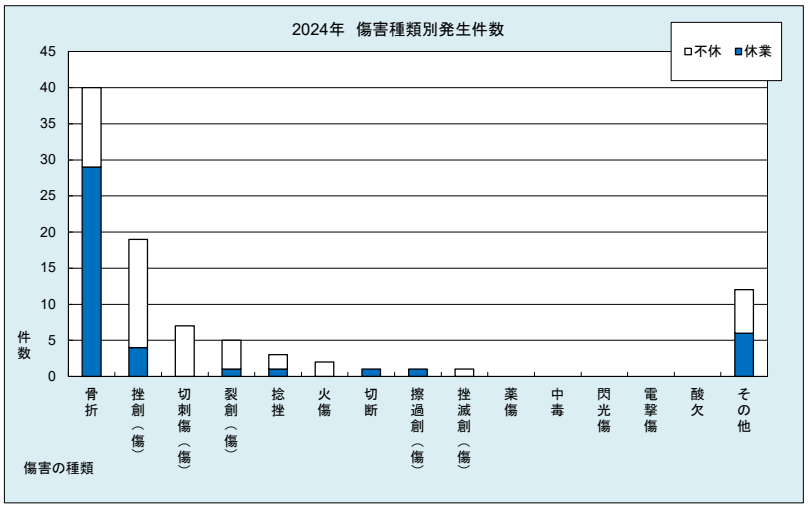


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	指部 27件（29%）	指部 26件（34%）	指部 21件（28%）	指部 29件（35%）	指部 26件（29%）	指部 31件（35%）	指部 23件（28%）	指部 27件（31%）	指部 30件(35%)	指部 32件(43%)
２位	足部（含かかと） 17件（18%）	足部（含かかと） 12件（16%）	上腕・前腕部 12件（16%）	足部（含かかと） 16件（19%）	上腕・前腕部 11件（12%）	上腕・前腕部 15件（17%）	上腕・前腕部 15件（18%）	足部（含かかと） 12件（14%）	足部（含かかと） 13件（15%）	上腕・前腕部/ 足部（含かかと） 9件(12%)
３位	上腕・前腕部 12件（13%）	腹腰部 9件（12%）	足部（含かかと） 10件（13%）	上腕・前腕部 10件（12%）	大・下腿部/ 足部（含かかと） 10件（11%）	足部(含かかと) 10件（11%）	足部(含かかと) 14件（17%）	上腕・前腕部 9件（10%）	上腕・前腕部 10件（12%）	大・下腿部 9件（7%）

7 傷害の種類別発生件数

傷害の種類は、過去10年間「骨折」が連続して第１位であり、災害全体の35%～46%を占めている。次いで「挫創（傷）」（第2位7回、第3位3回）「切刺創（傷）」（第2位2回、第3位6回）が続いている。

傷害の種類	休業	不休	合計	占率
骨折	29	11	40	44%
挫創（傷）	4	15	19	21%
切刺傷（傷）		7	7	8%
裂創（傷）	1	4	5	5%
捻挫	1	2	3	3%
火傷		2	2	2%
切断	1		1	1%
擦過創（傷）	1		1	1%
挫滅創（傷）		1	1	1%
薬傷				
中毒				
閃光傷				
電撃傷				
酸欠				
その他	6	6	12	13%
計	43	48	91	100%

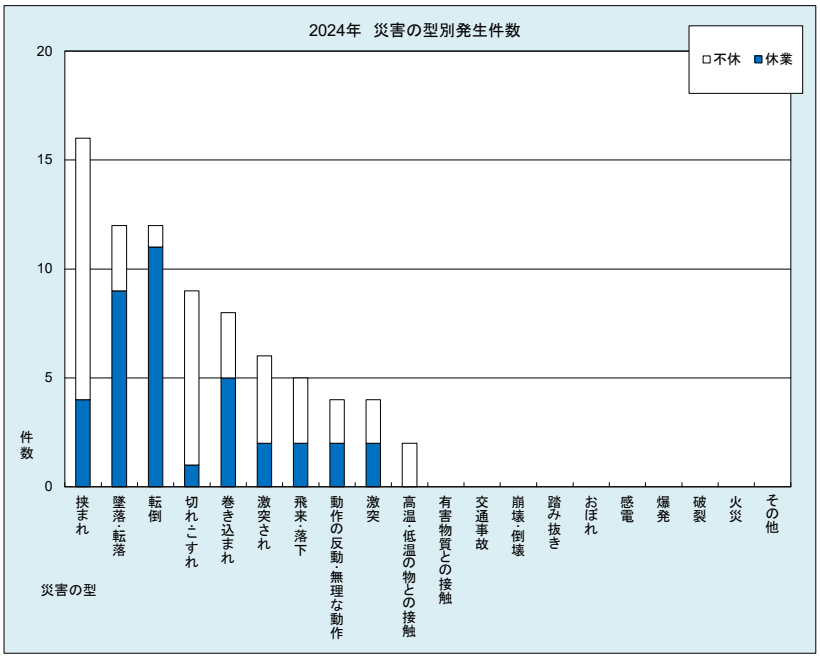


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	骨折 40件（44%）	骨折 29件（35%）	骨折 30件（39%）	骨折 36件（42%）	骨折 39件（43%）	骨折 35件（41%）	骨折 36件（46%）	骨折 41件（45%）	骨折 34件(39%)	骨折 34件(46%)
２位	挫創（傷） 19件（21%）	切刺創（傷） 10件（12%）	挫創（傷） 14件（18%）	切刺創（傷） 11件（13%）	裂創(傷) 12件（13%）	挫創（傷） 12件（14%）	挫創（傷） 9件（12%）	挫創（傷） 13件（14%）	挫創（傷） 15件(17%)	挫創(傷) 14件(19%)
３位	切刺創（傷） 7件（8%）	挫創（傷） 9件（11%）	切刺創（傷） 6件（8%）	挫創（傷） 8件（9%）	挫創（傷） 8件（9%）	切刺創（傷） 8件（10%）	切刺創（傷） 8件（10%）	切刺創（傷） 8件（9%）	切刺創（傷） 14件(16%)	裂創(傷) 6件(8%)

8 災害の型別発生件数

過去10年を見ると、「挟まれ」（第1位9回、第2位1回）が最も多く、次いで「墜落・転落」（第2位4回、第3位5回）、「転倒」（第2位5回、第3位3回）、「切れ・こすれ」（第1位1回、第2位3回、第3位1回）が続いている。

災害の型	休業	不休	合計	占率
挟まれ	4	12	16	20%
墜落･転落	9	3	12	15%
転倒	11	1	12	15%
切れ･こすれ	1	8	9	11%
巻き込まれ	5	3	8	10%
激突され	2	4	6	7%
飛来･落下	2	3	5	6%
動作の反動･無理な動作	2	2	4	5%
激突	2	2	4	5%
高温･低温の物との接触		2	2	2%
有害物質との接触				
交通事故				
崩壊･倒壊				
踏み抜き				
おぼれ				
感電				
爆発				
破裂				
火災				
その他		3	3	4%
計	38	43	81	100%

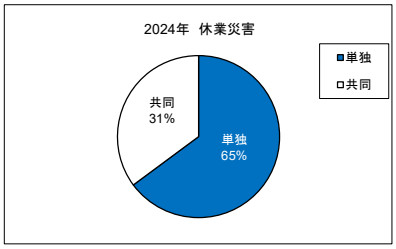


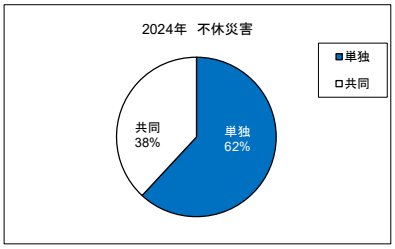
順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	挟まれ 16件（20%）	切れ・こすれ 14件（19%）	挟まれ 18件（27%）	挟まれ 18件（23%）	挟まれ 19件（23%）	挟まれ 19件（24%）	挟まれ 17件（22%）	挟まれ 18件（23%）	挟まれ 29件（25%）	挟まれ 20件(27%)
２位	墜落・転落 /転倒 12件（15%）	挟まれ 12件（16%）	転倒 10件（15%）	切れ・こすれ 13件（17%）	転倒 13件（16%）	墜落・転落/転倒/ 切れ・こすれ 10件（13%）	転倒 14件（18%）	墜落・転落 10件（13%）	切れ・こすれ 14件(15%)	墜落・転落 12件(16%)
３位	切れ・こすれ 9件（11%）	墜落・転落 /転倒 9件（12%）	墜落・転落 9件（13%）	墜落・転落 11件（14%）	墜落・転落 12件（15%）	巻き込まれ 8件(10%)	墜落・転落 8件（10%）	転倒 9件（12%）	巻き込まれ 10件(11%)	転倒 9件(12%)

9 作業形態別発生件数

災害発生時の作業形態をみると、過去10年間、単独作業時の発生が一貫して多く、災害全体の51%～67%を占めている。

作業形態	休業	不休	合計	占率
単独	24	26	50	63%
共同	13	16	29	37%
計	37	42	79	100%



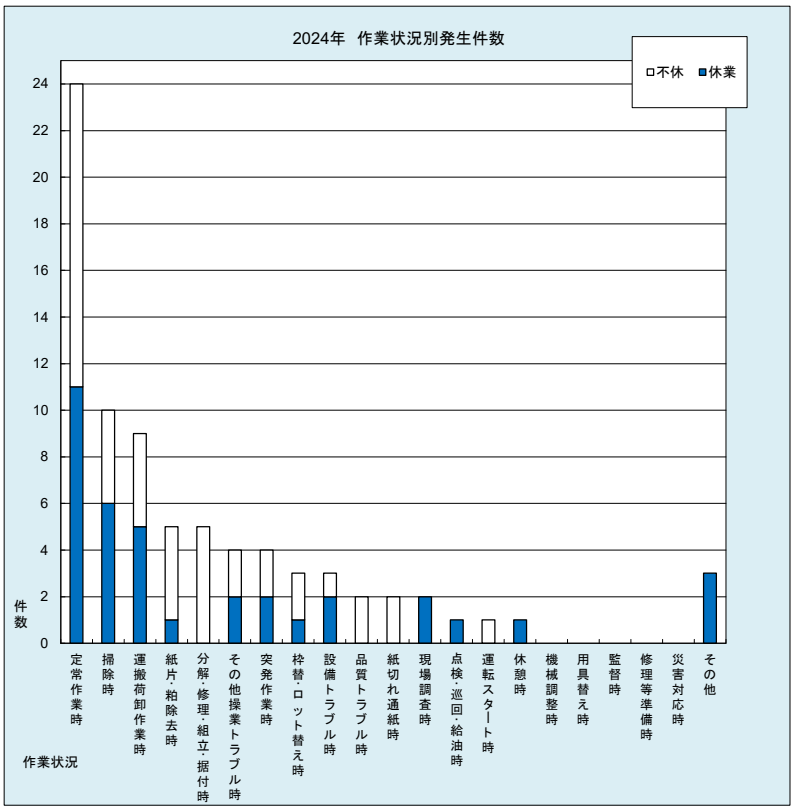


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	単独 50件（63%）	単独 49件（67%）	単独 39件（58%）	単独 45件（58%）	単独 53件（66%）	単独 44件（56%）	単独 48件（62%）	単独 39件（51%）	単独 52件(63%)	単独 43件(58%)
２位	共同 29件（37%）	共同 24件（33%）	共同 28件（42%）	共同 32件（42%）	共同 27件（34%）	共同 35件（44%）	共同 30件（38%）	共同 37件（49%）	共同 30件(37%)	共同 31件(42%)

10 作業状況別発生件数

災害発生時の作業状況は、過去10年間を見ると、「定常作業時」が20%～33%であり、「非定常作業時」が67%～80%を占めている。
「非定常作業」で目立つのは、「運搬荷卸作業時」（第2位6回、第3位3回）、「掃除時」（第2位4回、第3位1回）、「分解・修理・組立・据付時」（第2位1回、第3位4回）である。

作業状況	休業	不休	合計	占率
定常作業時	11	13	24	30%
掃除時	6	4	10	13%
運搬荷卸作業時	5	4	9	11%
紙片･粕除去時	1	4	5	6%
分解･修理･組立･据付時		5	5	6%
その他操業トラブル時	2	2	4	5%
突発作業時	2	2	4	5%
枠替･ロット替え時	1	2	3	4%
設備トラブル時	2	1	3	4%
品質トラブル時		2	2	3%
紙切れ通紙時		2	2	3%
現場調査時	2		2	3%
点検･巡回･給油時	1		1	1%
運転スタート時		1	1	1%
休憩時	1		1	1%
機械調整時				
用具替え時				
監督時				
修理等準備時				
災害対応時				
その他	3		3	4%
計	37	42	79	100%

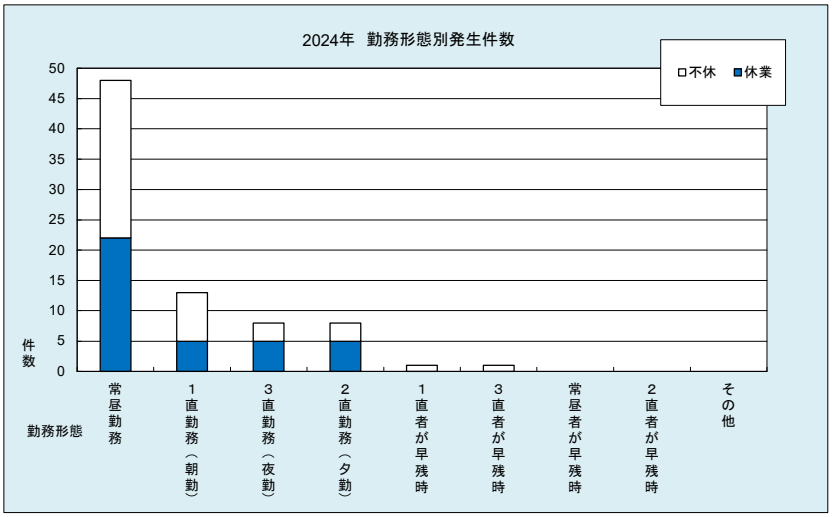


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	定常作業時 24件(30%)	定常作業時 22件(30%)	定常作業時 22件(33%)	定常作業時 23件(30%)	定常作業時 19件(24%)	定常作業時 20件(25%)	定常作業時 125件（32%）	定常作業時 16件（20%）	定常作業時 24件(28%)	定常作業時 28件(33%)
２位	掃除時 10件(13%)	運搬荷卸作業時 9件(12%)	その他操業トラブル時/掃除時 7件(10%)	運搬荷卸作業時 12件(16%)	運搬荷卸作業時 8件(10%)	運搬荷卸作業時 13件(16%)	分解･修理･組立･据付時/運搬荷卸作業時 6件（8%）	掃除時 14件（18%）	運搬荷卸作業時 15件(17%)	掃除時 7件(8%)
３位	運搬荷卸作業時 9件(11%)	分解･修理･組立･据付時 8件(11%)	分解･修理･組立･据付時 6件(9%)	分解･修理･組立･据付時 9件(12%)	掃除時 7件(9%)	設備トラブル時 9件（11%）	設備トラブル時/紙片粕除去時 6件（8%）	運搬荷卸作業時 8件（10%）	分解･修理･組立･据付時 8件(9%)	運搬荷卸作業時 6件(7%)

11 勤務形態別発生件数

勤務形態による発生件数は、過去10年間連続して「常昼勤務」が第1位である。次いで「1直勤務（朝勤）」（第2位9回）が続いている。

勤務形態	休業	不休	合計	占率
常昼勤務	22	26	48	61%
１直勤務（朝勤）	5	8	13	16%
３直勤務（夜勤）	5	3	8	10%
２直勤務（夕勤）	5	3	8	10%
１直者が早残時		1	1	1%
３直者が早残時		1	1	1%
常昼者が早残時				
２直者が早残時				
その他				
計	37	42	79	100%



順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	常昼勤務 48件（61%）	常昼勤務 40件（55%）	常昼勤務 34件（51%）	常昼勤務 41件（53%）	常昼勤務 45件（56%）	常昼勤務 47件（59%）	常昼勤務 36件（46%）	常昼勤務 40件（53%）	常昼勤務 47件(57%)	常昼勤務 40件（54%）
２位	１直勤務(朝勤) 13件（16%）	１直勤務(朝勤) 16件（22%）	３直勤務(夜勤) 11件（16%）	１直勤務(朝勤) 18件（23%）	１直勤務(朝勤) 17件（21%）	１直勤務(朝勤) 14件（18%）	１直勤務(朝勤) 17件（22%）	１直勤務(朝勤) 20件（26%）	１直勤務(朝勤) ３直勤務(夜勤) 10件(12%)	１直勤務(朝勤) 15件(20%)
３位	３直勤務(夜勤) ２直勤務(夕勤) 8件（10%）	３直勤務(夜勤) ２直勤務(夕勤) 7件（10%）	１直勤務(朝勤) 10件（15%）	３直勤務(夜勤) 11件（14%）	２直勤務(夕勤) 8件（10%）	３直勤務(夜勤) 8件（10%）	２直勤務(夕勤) 11件(14%)	３直勤務(夜勤) 5件（7%）	２直勤務(夕勤) 9件(11%)	２直勤務(夕勤) 9件(12%)

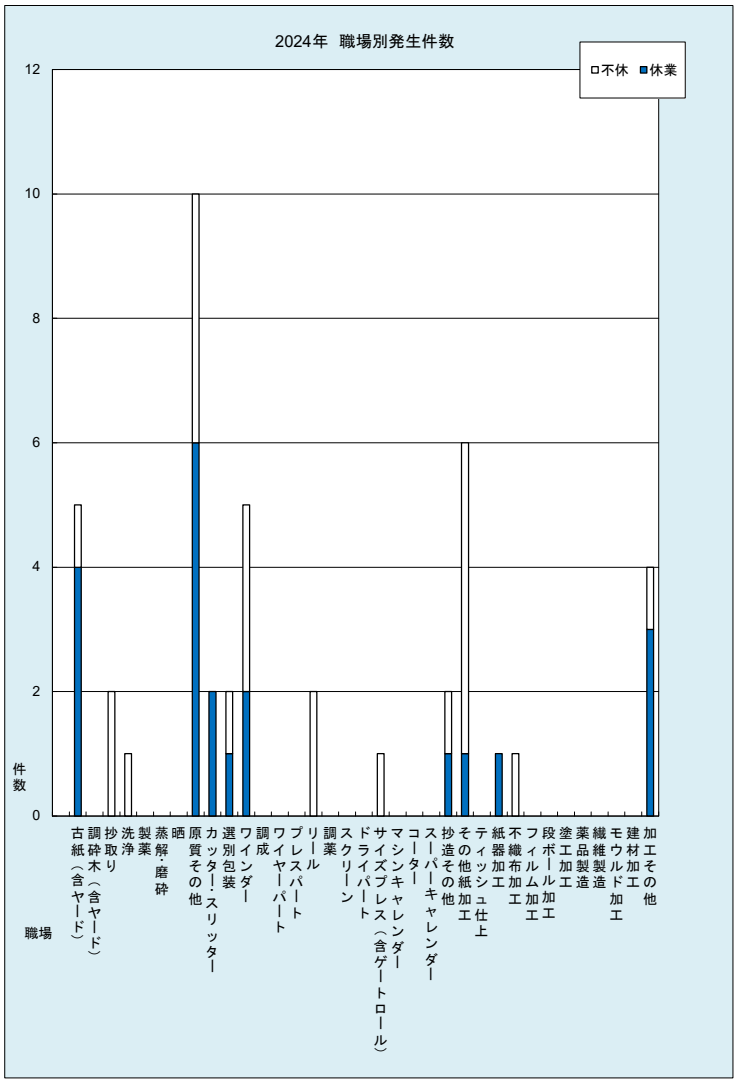
12 工程別発生件数

災害発生の工程は、原質・抄造・加工については職場毎に、動力・施設・その他の部門については職種毎に集計している。

過去10年間を見ると、「荷役運搬倉庫」（第1位9回、第2位1回）が最も多い。また部門では、仕上が含まれる「抄造部門」が第1位6回、荷役運搬倉庫を含む「その他部門」が第1位5回となっている。

（１）職場

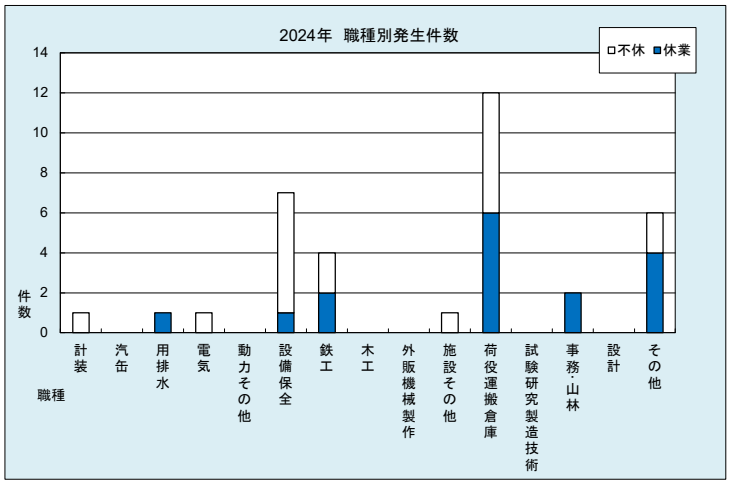
職場		休業	不休	合計	占率
原質	古紙（含ヤード）	4	1	5	6%
	調砕木（含ヤード）				
	抄取り		2	2	3%
	洗浄		1	1	1%
	製薬				
	蒸解･磨砕				
	晒				
	原質その他	6	4	10	13%
抄造	カッター･スリッター	2		2	3%
	選別包装	1	1	2	3%
	ワインダー	2	3	5	6%
	調成				
	ワイヤーパート				
	プレスパート				
	リール		2	2	3%
	調薬				
	スクリーン				
	ドライパート				
	サイズプレス（含ゲートロール）		1	1	1%
	マシンキャレンダー				
	コーター				
	スーパーキャレンダー				
	抄造その他	1	1	2	3%
加工	その他紙加工	1	5	6	8%
	ティッシュ仕上				
	紙器加工	1		1	1%
	不織布加工		1	1	1%
	フィルム加工				
	段ボール加工				
	塗工加工				
	薬品製造				
	繊維製造				
	モウルド加工				
	建材加工				
	加工その他	3	1	4	5%



（２）職種

職種		休業	不休	合計	占率
動力	計装		1	1	1%
	汽缶				
	用排水	1		1	1%
	電気		1	1	1%
	動力その他				
施設	設備保全	1	6	7	9%
	鉄工	2	2	4	5%
	木工				
	外販機械製作				
	施設その他		1	1	1%
その他	荷役運搬倉庫	6	6	12	15%
	試験研究製造技術				
	事務･山林	2		2	3%
	設計				
	その他	4	2	6	8%

職場・職種　計	37	42	79	100%

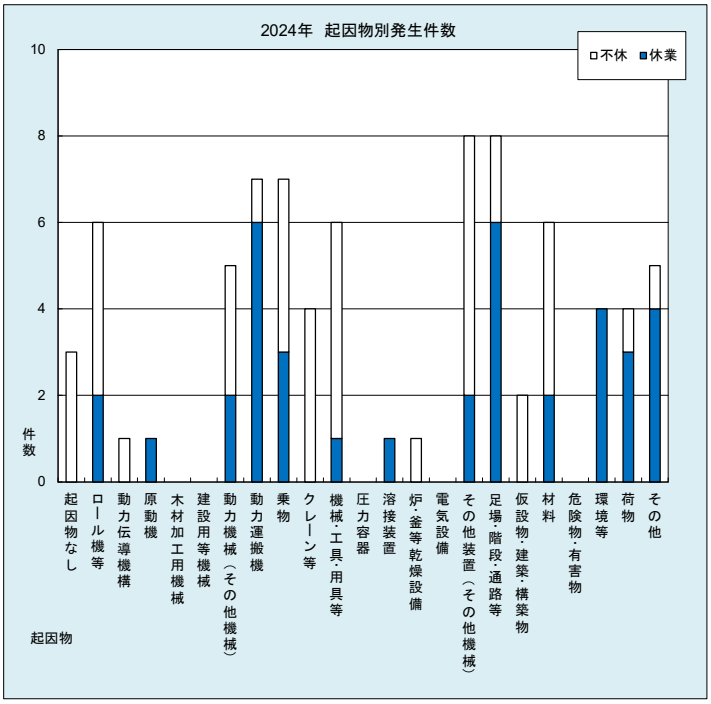


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	荷役運搬倉庫 12件(15%)	荷役運搬倉庫 12件(16%)	荷役運搬倉庫 8件(12%)	荷役運搬倉庫 17件(21%)	荷役運搬倉庫 16件(18%)	荷役運搬倉庫 11件(13%)	荷役運搬倉庫 9件（10%）	荷役運搬倉庫 17件（20%）	荷役運搬倉庫 16件(17%)	カッター・スリッター 8件(10%)
２位	原質その他 10件(13%)	その他紙加工 8件(11%)	その他紙加工 7件(10%)	設備保全/鉄工 7件(9%)	古紙(含ヤード) 7件(8%)	その他紙加工/加工その他 8件(10%)	カッター・スリッター 8件(9%)	設備保全 7件（8%）	原質その他 8件(8%)	荷役運搬倉庫 7件(9%)
３位	設備保全 7件（9%）	古紙(含ヤード) 7件(10%)	選別包装/抄造その他 6件(9%)	カッター・スリッター/加工その他 6件(7%)	その他紙加工 6件(7%)	古紙（含ヤード）/ワインダー/抄造その他 5件(6%)	ワインダー 6件（7%）	選別包装/汽缶 5件（6%）	カッター・スリッター 7件(7%)	設備保全 5件(6%)
工程１位	その他　25%	その他　28%	抄造　30%	その他　33%	その他　30%	抄造/その他　25%	抄造　30%	抄造　27%	抄造　25%	抄造　30%

13 起因物別発生件数

過去10年を見ると、災害の起因物として目立つのは、「足場・階段・通路等」（第1位8回、第2位1回）、「機械・工具・用具等」（第1位2回、第2位2回、第3位2回）、ロール機等（第2位4回、第3位2回）である。

起因物		休業	不休	合計	占率
起因物なし	起因物なし		3	3	4%
動力機械	ロール機等	2	4	6	8%
	動力伝導機構		1	1	1%
	原動機	1		1	1%
	木材加工用機械				
	建設用等機械				
	動力機械（その他機械）	2	3	5	6%
物上・運搬	動力運搬機	6	1	7	9%
	乗物	3	4	7	9%
	クレーン等		4	4	5%
その他装置	機械･工具･用具等	1	5	6	8%
	圧力容器				
	溶接装置	1		1	1%
	炉･釜等乾燥設備		1	1	1%
	電気設備				
	その他装置（その他機械）	2	6	8	10%
建築構築物	足場･階段･通路等	6	2	8	10%
	仮設物･建築･構築物		2	2	3%
物質・材料	材料	2	4	6	8%
	危険物･有害物				
その他	環境等	4		4	5%
	荷物	3	1	4	5%
	その他	4	1	5	6%
計		37	42	79	100%

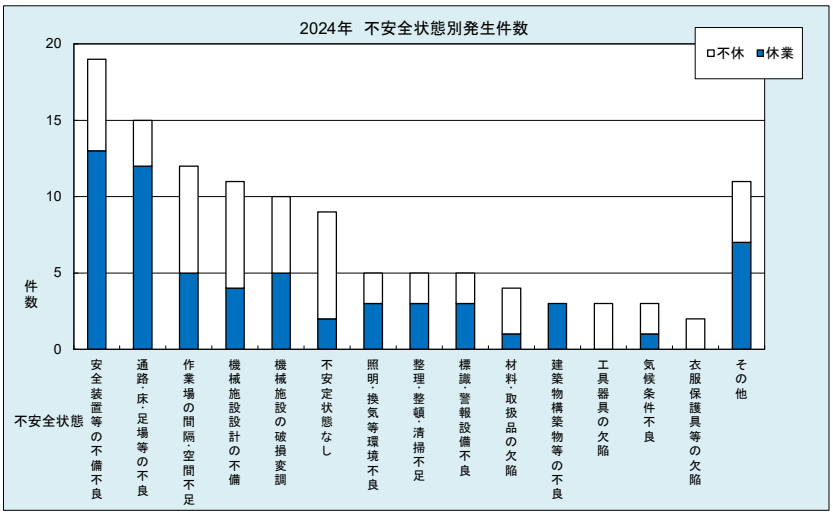


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	足場･階段･通路等/その他装置（その他機械） 8件(10%)	足場･階段･通路等 14件(18%)	足場･階段･通路等 11件(16%)	足場･階段･通路等 11件(14%)	足場･階段･通路等 16件(20%)	足場･階段･通路等 12件(15%)	足場･階段･通路等 17件(21%)	機械･工具･用具等/足場･階段･通路等 10件（13%）	機械･工具･用具等 12件(14%)	動力運搬機 9件(11%)
2位	動力運搬機/乗物 7件(9%)	機械･工具･用具等 11件(14%)	ロール機等/動力機械（その他機械）/機械･工具･用具等 6件(9%)	荷物 8件(10%)	動力運搬機 9件(11%)	ロール機等 10件(12%)	ロール機等 9件（11%）	動力運搬機 8件（11%）	ロール機等 11件(13%)	足場･階段･通路等 8件(10%)
3位	ロール機等/材料/機械・工具・用具等 6件(8%)	その他装置（その他機械）/材料 7件(9%)	動力運搬機/その他装置（その他機械）/材料 5件(7%)	ロール機等 7件(9%)	その他装置（その他機械） 7件(9%)	動力機械（その他機械） 8件（10%）	機械･工具･用具等 8件（10%）	動力機械（その他機械） 5件（7%）	その他装置（その他機械） 9件(11%)	その他装置（その他機械）/材料 7件(9%)

14 不安全状態別発生件数

過去10年を見ると、具体的な不安全状態としては、「通路・床・足場等の不良」（第1位7回、第2位2回、第3位1回）が最も多く、次いで「安全装置等の不備不良」（第1位4回、第2位5回、第3位1回）、「作業場の間隔・空間不足」（第1位2回、第2位1回、第3位5回）が続いている。

不安全状態	休業	不休	合計	占率
安全装置等の不備不良	13	6	19	16%
通路･床･足場等の不良	12	3	15	13%
作業場の間隔･空間不足	5	7	12	10%
機械施設設計の不備	4	7	11	9%
機械施設の破損変調	5	5	10	9%
不安定状態なし	2	7	9	8%
照明･換気等環境不良	3	2	5	4%
整理･整頓･清掃不足	3	2	5	4%
標識･警報設備不良	3	2	5	4%
材料･取扱品の欠陥	1	3	4	3%
建築物構築物等の不良	3		3	3%
工具器具の欠陥		3	3	3%
気候条件不良	1	2	3	3%
衣服保護具等の欠陥		2	2	2%
その他	7	4	11	9%
計	62	55	117	100%

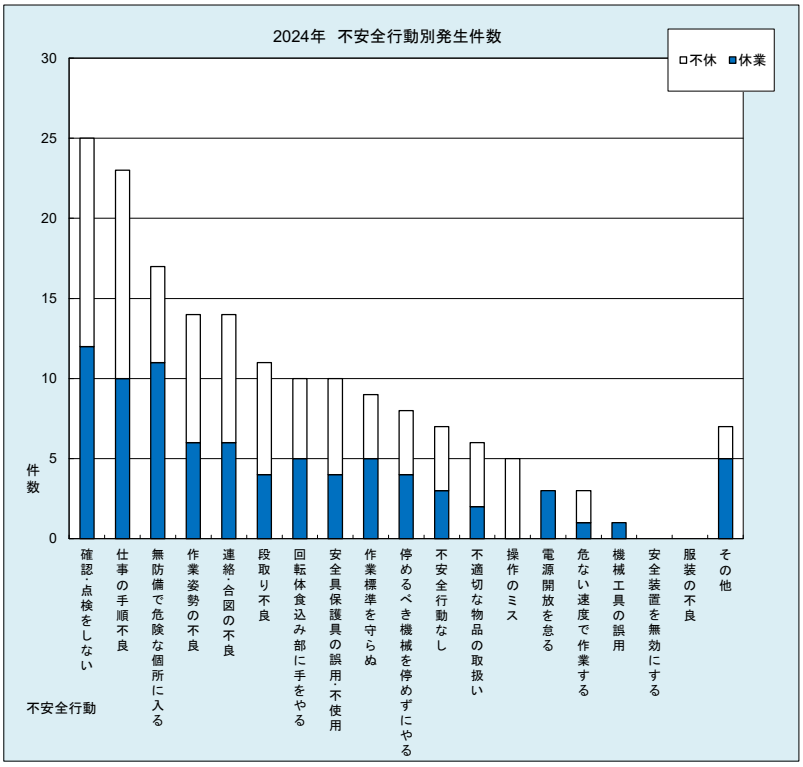


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
1位	安全装置等の不備不良 19件（16%）	通路･床･足場等の不良 20件（21%）	通路･床･足場等の不良 16件（18%）	作業場の間隔･空間不足 21件（18%）	通路･床･足場等の不良 23件（19%）	安全装置等の不備不良/作業場の間隔･空間不 21件（19%）	通路･床･足場等の不良 21件（23%）	安全装置等の不備不良/通路･床･足場等の不良 13件（15%）	安全装置等の不備不良/通路･床･足場等の不良 13件（15%）	通路･床･足場等の不良 15件(17%)
2位	通路･床･足場等の不良 15件（13%）	安全装置等の不備不良 17件（18%）	安全装置等の不備不良 15件（17%）	安全装置等の不備不良 17件（15%）	作業場の間隔･空間不足 21件（18%）	通路･床･足場等の不良 15件（14%）	安全装置等の不備不良 14件（15%）	不安全状態なし 11件（13%）	不安全状態なし 11件（13%）	安全装置等の不備不良 12件(14%)
3位	作業場の間隔･空間不足 12件（10%）	不安全状態なし 8件（9%）	不安全状態なし 9件（10%）	通路･床･足場等の不良 16件（14%）	安全装置等の不備不良 20件（17%）	機械施設の破損変調 9件（8%）	作業場の間隔･空間不足 12件（13%）	作業場の間隔･空間不足 10件（11%）	作業場の間隔･空間不足 10件（11%）	作業場の間隔･空間不足 10件(11%)

15 不安全行動別発生件数

過去10年間の具体的な不安全行動としては「確認・点検をしない」（第1位6回、第3位3回）、「作業姿勢の不良」（第1位4回、第2位4回、第3位1回）「無防備で危険な個所に入る」（第1位1回、第2位1回、第3位5回）、「仕事の手順不良」（第1位1回、第2位2回、第3位2回）が目立つ。

不安全行動	休業	不休	合計	占率
確認･点検をしない	12	13	25	14%
仕事の手順不良	10	13	23	13%
無防備で危険な個所に入る	11	6	17	10%
作業姿勢の不良	6	8	14	8%
連絡･合図の不良	6	8	14	8%
段取り不良	4	7	11	6%
回転体食込み部に手をやる	5	5	10	6%
安全具保護具の誤用･不使用	4	6	10	6%
作業標準を守らぬ	5	4	9	5%
停めるべき機械を停めずにやる	4	4	8	5%
不安全行動なし	3	4	7	4%
不適切な物品の取扱い	2	4	6	3%
操作のミス		5	5	3%
電源開放を怠る	3		3	2%
危ない速度で作業する	1	2	3	2%
機械工具の誤用	1		1	1%
安全装置を無効にする				
服装の不良				
その他	5	2	7	4%
計	82	91	173	100%

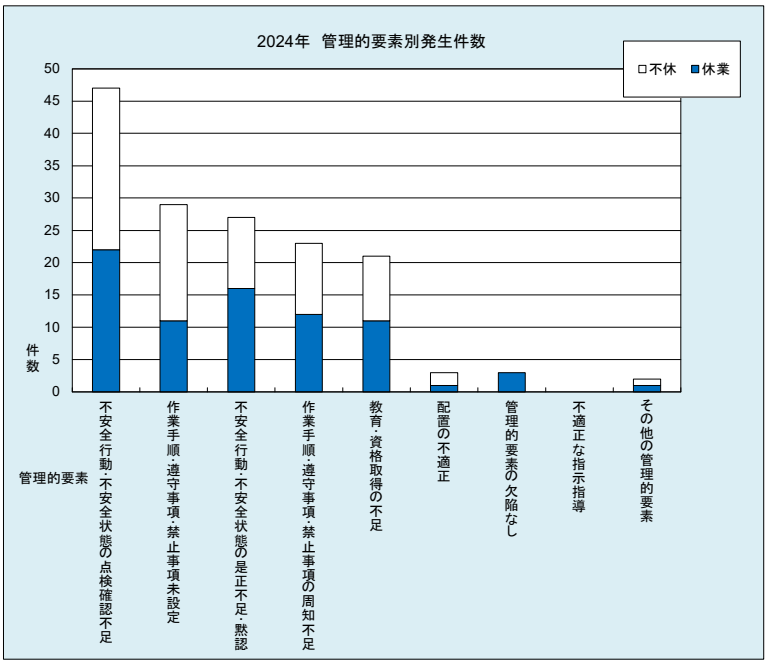


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	確認･点検をしない 25件（14%）	確認･点検をしない 21件（14%）	確認･点検をしない/仕事の手順不良 16件（13%）	作業姿勢の不良 23件（16%）	確認･点検をしない 22件（13%）	無防備で危険な個所に入る 24件（15%）	作業姿勢の不良 26件（21%）	確認･点検をしない 19件（18%）	確認･点検をしない/作業姿勢の不良 20件（12%）	連絡･合図の不良/作業姿勢の不良 15件(12%)
２位	仕事の手順不良 23件（13%）	作業姿勢の不良 20件（14%）	連絡･合図の不良/作業標準を守らぬ/作業姿勢の不良 13件（10%）	停めるべき機械を停めずにやる 12件（8%）	無防備で危険な個所に入る 21件（13%）	作業姿勢の不良 22件（14%）	作業標準を守らぬ 17件(14%)	作業姿勢の不良 13件（12%）	仕事の手順不良 15件(9%)	作業標準を守らぬ 13件(11%)
３位	無防備で危険な個所に入る 17件（10%）	仕事の手順不良 17件（12%）	無防備で危険な個所に入る 10件（8%）	確認･点検をしない/無防備で危険な個所に入る 11件（8%）	作業姿勢の不良 20件（12%）	確認･点検をしない 15件（10%）	仕事の手順不良 13件(11%)	無防備で危険な個所に入る 11件（10%）	無防備で危険な個所に入る 14件(9%)	確認･点検をしない 11件(9%)

16 管理的要素別発生件数

管理的要素の欠陥としては、過去10年を見ると、「不安全行動・不安全状態の点検確認不足」（第1位8回、第2位1回）が圧倒的に多く、次いで「作業手順・順守事項・禁止事項未設定」（第1位1回、第2位6回、第3位2回）、「作業手順・順守事項・禁止事項の周知不足」（第1位1回、第2位3回、第3位2回）が続いている。

管理的要素	休業	不休	合計	占率
不安全行動･不安全状態の点検確認不足	22	25	47	30%
作業手順･遵守事項･禁止事項未設定	11	18	29	19%
不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認	16	11	27	17%
作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足	12	11	23	15%
教育･資格取得の不足	11	10	21	14%
配置の不適正	1	2	3	2%
管理的要素の欠陥なし	3		3	2%
不適正な指示指導				
その他の管理的要素	1	1	2	1%
計	77	78	155	100%

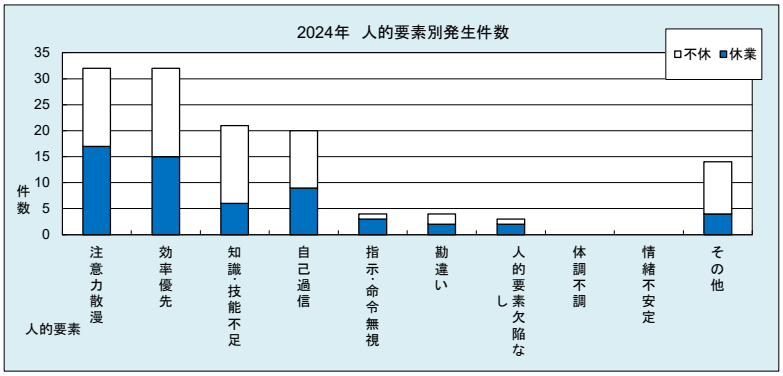


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 47件（30%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 46件（31%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 38件（31%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 36件（26%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 47件（35%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 46件（37%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 52件（34%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 40件（32%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 29件(23%)	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 35件(35%)
２位	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 29件（19%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 26件（18%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 20件（16%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 32件（23%）	教育･資格取得の不足/作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 20件（15%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 20件（16%）	不安全行動･不安全状態の点検確認不足 38件（25%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 27件（21%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 26件(21%)	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 19件(19%)
３位	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 27件（17%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 23件（16%）	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 19件（16%）	教育･資格取得の不足 20件（14%）	作業手順･遵守事項･禁止事項未設定 19件（14%）	教育･資格取得の不足 18件（14%）	不安全行動･不安全状態の是正不足･黙認 18件（12%）	教育･資格取得の不足 23件（18%）	教育･資格取得の不足 24件(19%)	作業手順･遵守事項･禁止事項の周知不足 15件(15%)

17 人的要素別発生件数

人的要素としては、この10年間を見ると「注意力散漫」（第1位8回、第2位1回、第3位1回）が最も多く、「効率優先」（第1位3回、第2位6回、第3位1回）、「知識・技能不足」（第1位1回、第2位4回、第3位2回）、がそれに続いている。

人的要素	休業	不休	合計	占率
注意力散漫	17	15	32	25%
効率優先	15	17	32	25%
知識･技能不足	6	15	21	16%
自己過信	9	11	20	15%
指示･命令無視	3	1	4	3%
勘違い	2	2	4	3%
人的要素欠陥なし	2	1	3	2%
体調不調				
情緒不安定				
その他	4	10	14	11%
計	58	72	130	100%

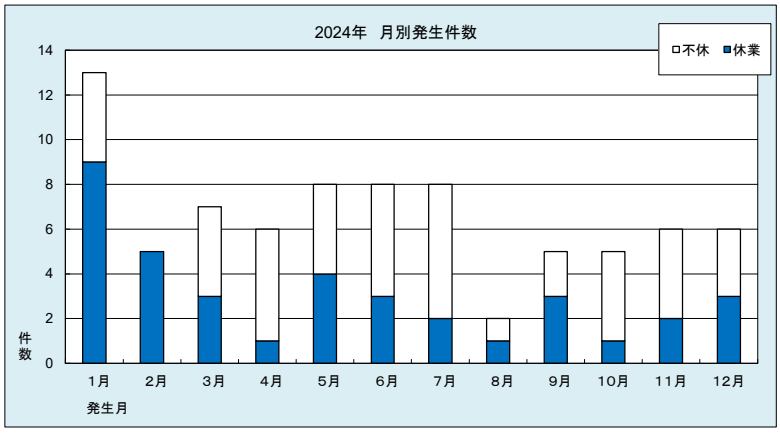


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	注意力散漫/効率優先 32件（25%）	注意力散漫 30件（25%）	注意力散漫 28件（26%）	効率優先 35件（25%）	注意力散漫 32件（24%）	注意力散漫 37件（31%）	注意力散漫 29件（24%）	知識・技能不足/注意力散漫 27件（22%）	注意力散漫 40件(31%)	効率優先 27件(24%)
２位	知識・技能不足 21件（16%）	効率優先 29件（24%）	効率優先 19件（18%）	注意力散漫 33件（24%）	効率優先 25件（19%）	知識・技能不足 24件（20%）	知識・技能不足/効率優先 25件（21%）	効率優先 24件（20%）	効率優先 28件(22%)	知識・技能不足 24件(22%)
３位	自己過信 20件（15%）	自己過信 21件（17%）	知識・技能不足 17件（16%）	自己過信 19件（14%）	知識・技能不足 21件（16%）	効率優先 23件（19%）	自己過信 16件（13%）	自己過信 19件（15%）	自己過信 13件(10%)	注意力散漫 22件(20%)

18 月別発生件数

過去10年で、トップ3に入った回数が5回以上あり災害発生が比較的多かった月は、6月（6回）、4月、10月（各5回）である。

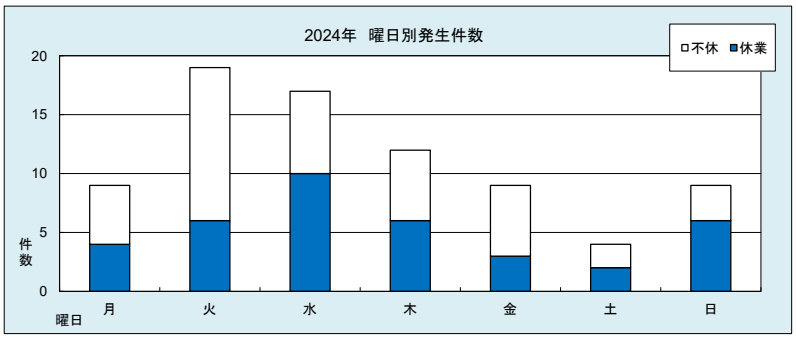
月	休業	不休	合計	占率
１月	9	4	13	16%
２月	5		5	6%
３月	3	4	7	9%
４月	1	5	6	8%
５月	4	4	8	10%
６月	3	5	8	10%
７月	2	6	8	10%
８月	1	1	2	3%
９月	3	2	5	6%
１０月	1	4	5	6%
１１月	2	4	6	8%
１２月	3	3	6	8%
計	37	42	79	100%

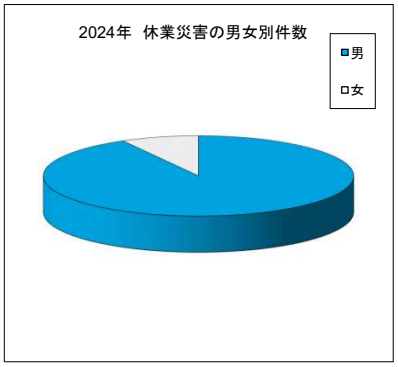
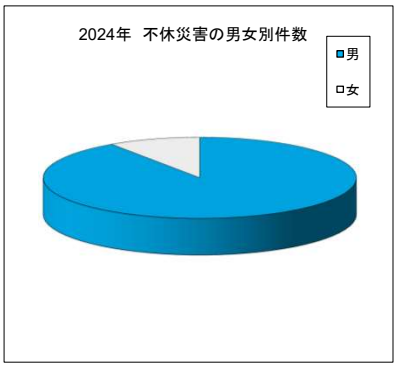


順位	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
１位	１月 13件（16%）	１２月 10件（14%）	９月/１０月 8件（12%）	３月 11件（14%）	７月 13件（16%）	８月 12件（15%）	１２月 11件（15%）	４月/９月 10件（13%）	６月/８月 10件(12%)	６月 10件(14%)
２位	５月/６月/７月 8件（10%）	２月 9件（12%）	４月/６月 7件（10%）	４月 10件（13%）	１２月 9件（11%）	１１月 10件（13%）	３月 9件（12%）	１０月 9件（12%）	１０月 9件(11%)	５月 9件(12%)
３位	３月 7件（9%）	３月/４月 8件（11%）	２月/８月 6件（9%）	６月 9件（12%）	６月/８月/１０月 8件（10%）	１０月 9件（11%）	２月/７月 8件（11%）	１月 8件（11%）	１月/７月 8件(10%)	１月/４月/１２月 8件(11%)

19 曜日別発生件数

曜日	休業	不休	合計	占率
月	4	5	9	11%
火	6	13	19	24%
水	10	7	17	22%
木	6	6	12	15%
金	3	6	9	11%
土	2	2	4	5%
日	6	3	9	11%
計	37	42	79	100%



20 性別発生件数

性別	休業	不休	合計	占率
男	34	38	72	91%
女	3	4	7	9%
計	37	42	79	100%